授業科目名： 家庭電気・機械及び情報処理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本　耕司 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭電気・家庭機械・情報処理

授業のテーマ及び到達目標

本授業の目的は、家庭で利用する電気エネルギーで動作する機械類について，安全に，経済的に，かつ効果的に使用できるようになり、その結果、家庭科の衣・食・住・情報に関する教科内容を指導する上で背景となる、有用で幅広い知識と教養を身につけることである。

［到達目標］

現代社会の礎を成す主なエネルギーが電気であることを踏まえ、家庭において健全な生活を営む上で、最も重要な礎の一つが電気であるといえる。そこで、以下を到達目標とする。

１）家庭で利用する電気の基礎を理解し、その特性を把握できるようになる

２）１）により実生活の中でも電気を積極的に利用し、家庭内の電気機器類を賢く使用できるようになる

３）家庭内機器の遠隔制御（IoT）や高齢者の見守り機能を有するスマート住宅など、ICTの普及した社会について理解し、見識を持てるようになる

授業の概要

- すべてのものには電気的な性質があることを理解する。
- 電気（交流、直流）の基礎的性質を理解する。
- 電気が作られて、家庭に送られて来るまでの過程を理解する。
- 家庭内の配電、ブレーカー、オール電化などを理解する。
- 家庭用電気機器（冷蔵庫、エアコン、IH、掃除機、TV など）を理解する。
- 照明、無線機器、赤外線機器などを理解する。
- 見守り、防災等生活と社会との連携、センサ技術・健康家電などを理解する

授業計画

第１回：家庭の電気と機械に関する認識度調査

第２回：電気の基礎知識（１）電気と磁気，電圧と電流，電気抵抗

第３回：電気の基礎知識（２）キルヒホフの法則，直流と交流

第４回：周波数，コイルとコンデンサ，インダクタンスとリアクタンス

第５回：電気が家庭に送られてくるまで　電力，発変電，送電，電力量，電気料金

第６回：冷蔵庫，電子レンジ，IHなどの主なキッチン家電の原理と特徴及びその利活用

第７回：照明，白熱電球，蛍光灯，ＬＥＤなどの生活家電の原理と特徴及びその利活用

第8回 : 再生可能エネルギーとエコについて
第9回 : 電波と光，テレビなどのAV家電の原理と特徴及びその利活用
第１０回 : デジタル通信，パソコンなどの情報家電の原理と特徴及びその利活用
第１１回 : 情報社会，セキュリティーシステム、家電事故発生の現状と防止対策
第１２回 : スマートフォン，スマホアプリの現状と課題
第１３回 : センサ，スマートハウス，高齢者見守りと個人情報保護
第１４回 : 家庭における安全で有効な電気機器の利用，待機電力，省エネ，健康家電
第１５回 : まとめ
定期試験

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
プリント配布

学生に対する評価
授業では積極的に発言し，理解できていることと十分でないことを切り分けられることや、授業中の質疑応答を的確に行えることに加え、課題発表時には十分理解していること。これらに期末試験を総合して到達目標に達している具合を評価する。なお、これらの割合は２：3：2：3とする。

授業科目名： 情報社会と情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：竹口幸志 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理		

授業の到達目標及びテーマ

本授業では，国内の情報利用動向，情報政策，情報法，情報教育，情報セキュリティについて理解し，受講生それぞれが情報社会に求められる情報倫理ついて考え，情報社会に参画する態度を養うことを目標とする。

授業の概要

本授業では，国内の情報利用動向，情報政策，情報法，情報教育，情報セキュリティの各観点から情報社会に起こっている事象を取り上げる。情報社会に起こる様々な事象を理解することを通して，将来の情報社会の構築と情報倫理について検討し，受講生ひとり一人が情報社会に参画する態度を養う。

授業計画

第１回：情報社会とは
第２回：近年の情報通信技術利用動向
第３回：近年の情報関連政策動向
第４回：情報と法1：表現の自由に係る問題と対応の検討
第５回：情報と法2：著作権に関わる問題と対応の検討
第６回：情報と法3：知的財産権に関わる問題と対応の検討
第７回：情報と法4：個人情報の保護に関する法律に関わる問題と対応の検討
第８回：情報と経済1：電子商取引における問題と情報倫理
第９回：情報と経済2：マーケティングにおける問題と情報倫理
第１０回：情報と教育1：情報リテラシー育成の検討（情報活用能力，メディアリテラシーを含む）
第１１回：情報と教育2：教育の情報化政策の動向
第１２回：情報と教育3：情報モラル育成の検討
第１３回：情報セキュリティ1：日本のサイバー環境が置かれる状況と情報セキュリティの動向
第１４回：情報セキュリティ2：不正アクセス禁止法に関わる問題と対応の検討
第１５回：情報セキュリティ3：プロバイダ責任制限法に関わる問題と対応の検討
定期試験

テキスト

特になし

参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 毎回の授業の最後に実施する試験（60%），レポート（40%）

授業科目名： インターネット社会のための情報倫理	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 河村　泰之 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理		

授業の到達目標及びテーマ

（授業のテーマ）

情報社会・情報倫理

（授業の到達目標）

・情報社会に関する法律にどのようなものがあるかを知り，その概要を理解する。

・法と倫理の違いを理解する。

・情報社会で守るべき法と倫理を理解する。

・情報通信技術を用いる利便性と危険性のトレードオフを理解する。

授業の概要

高等学校「情報」の免許科目である。今後の情報社会を生きる高校生に必要な知識や心構えを身につけさせるために必要なことを確認する。そのためにも基本的な情報技術（特にネットワークやセキュリティ）への理解が求められる。

授業計画

第１回：ガイダンス、情報社会と情報倫理

第２回：インターネット社会と情報倫理

第３回：個人情報と知的財産権

第４回：ネットコミュニケーション

第５回：情報社会における生活

第６回：情報セキュリティ

第７回：時事問題

第８回：試験とまとめ

テキスト

情報教育学研究会監修「インターネット社会を生きるための情報倫理　改訂版」、実教出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

期末試験（80%）および課題（20%）によって総合評価する。

授業科目名：情報エレクトロニクスとコンピュータ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：美井野 優 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業では，コンピュータ仕組みをハードウェアの観点から学ぶとともに，具体的な例としてシングルボードコンピュータの活用について講義する。情報エレクトロニクスとコンピュータに関する基礎的・普遍的側面の十分な理解を到達目標とする。

授業の概要

情報科学と電子工学を結びつけた情報エレクトロニクスは，高度情報化社会の基盤となる情報通信ネットワークやコンピュータシステムを構成するための技術である。本授業では，講義と演習を通してコンピュータの基本構成や動作原理，情報の表し方の基本事項について習得する。また，講義資料に基づき，シングルボードコンピュータを用いたIoT装置を自ら制作し，動作させる。

授業計画

第１回：コンピュータの構成と利用
第２回：データ表現（１）数の表現，基数の変換，負数の表現と加減算
第３回：データ表現（２）浮動小数点，データ表現の長所と問題点，コード
第４回：論理回路（１）集合，２値論理と基本論理回路
第５回：論理回路（２）組み合わせ回路，順序回路
第６回：プロセッサ（１）基本機能，構成回路，アーキテクチャ
第７回：プロセッサ（２）命令の種類と形状，動作の流れ，実際のプロセッサ
第８回：記憶装置・入出力機器
第９回： シングルボードコンピュータの概要と構成
第１０回：シングルボードコンピュータの IoT 機器としての活用
第１１回：シングルボードコンピュータにおけるプログラミング
第１２回：シングルボードコンピュータによる電子機器製作（１）課題設定，実習環境の確認
第１３回：シングルボードコンピュータによる電子機器製作（２）プログラミングとIO
第１４回：シングルボードコンピュータによる電子機器製作（３）アルゴリズム設計・実装
第１５回：シングルボードコンピュータによる電子機器製作（４）動作システムの評価・改良
定期試験

テキスト

指定なし
参考書・参考資料等 図解 コンピュータ概論［ハードウェア］（改訂 4 版）（オーム社）， Raspberry Piをはじめよう 第3版 （オライリー・ジャパン）
学生に対する評価 ３分の２以上の出席が確認できない場合，成績を評価しない。コンピュータを構成するハードウェアを深く理解する姿勢を評価する。講義への取り組み，試験，レポート，実習の成果物に基づき総合的に評価する。

授業科目名： プログラミング演習 （実習を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤　陽介 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

本授業では，アルゴリズムとプログラミング言語について講義し，各種課題を解決するためのプログラミング演習を行う。プログラミング言語に関する基礎的な知識と目的に応じたプログラムの作成能力を身に付けることを目標とする。

授業の概要

プログラミングは，アルゴリズムを具現化するためのものであり，高度情報化社会の基盤となる技術の一つである。本授業では，アルゴリズムの表現方法，プログラミング言語の文法や命令の組み合わせ方に関わる基本事項について取り扱うとともに，各種演習課題に関わるプログラムを自ら制作し，修正や目的とする動作の確認を実習する。

授業計画

第１回：プログラミング言語の歴史と種類
第２回：アルゴリズムと図表記
第３回：プログラミング環境の習得
第４回：プログラミング言語（１）基本文法
第５回：プログラミング言語（２）変数とデータ型
第６回：プログラミング演習（１）順次処理
第７回：プログラミング演習（２）条件判断処理
第８回：プログラミング演習（３）反復処理
第９回：プログラミング演習（４）再帰処理
第１０回：プログラミング演習（５）ファイル処理
第１１回：アルゴリズム（１）ソート，探索法など
第１２回：アルゴリズム（２）連立方程式の解法，モンテカルロ法など
第１３回：ライブラリの利用（１）数値計算
第１４回：ライブラリの利用（２）図形描画
第１５回：ライブラリの利用（３）統計処理

テキスト

適宜，資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし
学生に対する評価 レポート（２５％），実習への取り組み（２５％），筆記試験（５０％），

授業科目名： 情報回路と計測・制御 （実習を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤　陽介 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業では，コンピュータを構成する情報回路と計測・制御に関する技術を取り扱う。情報回路の仕組みを理解するとともに，基本的な計測・制御に関する考え方や技術を修得することを目標とする。

授業の概要

生活や社会においてコンピュータを内蔵した様々な機器が利用されている。これらの機器は計測機能によって外部から情報を取得し，制御機能によって外部に対して働きかけを行う情報回路を備える。本授業では，コンピュータを構成する基本技術である情報回路と計測・制御に関する技術について講義するとともに，プログラム可能な論理回路ＩＣを用いた実習を通して，各技術に対する理解を深める。

授業計画

第１回：アナログ信号とデジタル信号
第２回：スイッチ回路と情報回路，論理演算と記号
第３回：ブール代数と論理演算式
第４回：論理演算の組み合わせと順序回路
第５回：計測技術（計測対象物，AD変換）
第６回：制御技術（制御対象物，DA変換）
第７回：シーケンス制御とフィードバック制御
第８回：ハードウェア記述言語（１）概要
第９回：ハードウェア記述言語（２）記述方法
第１０回：ハードウェア記述言語（３）回路設計
第１１回：プログラム可能な論理回路ＩＣ（１）仕組みと利用方法
第１２回：プログラム可能な論理回路ＩＣ（２）情報回路の製作
第１３回：製作した情報回路を用いた計測に関する実習
第１４回：製作した情報回路を用いたシーケンス制御に関する実習
第１５回：製作した情報回路を用いたフィードバック制御に関する実習

テキスト

適宜，資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポート（２５％），実習への取り組み（２５％），筆記試験（５０％）

授業科目名： ヒューマンインタフェース	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田　貴志 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

（授業のテーマ）

コミュニケーションにおける身体性の役割

（授業の到達目標）

１．ヒューマンインタフェースの概念と歴史を説明できる。

２．情報システムとしての人間特性に関する基礎的な知識を習得できる。

３．インタラクションの要素としてのコンピュータに関する基礎的な知識を習得できる。

４．インタフェースのデザイン・評価に関する基礎的な知識を習得できる。

５．ヒューマンインタフェースの可能性を表現できる。

授業の概要

人間と情報機械、情報機械を介した人間のインタラクションを円滑にし、コミュニケーションを支援することがヒューマンインタフェースの主要な目的である。本授業では、この目的を達成する過程でのインタラクションに焦点を当て、情報システムとしての人間特性、インタラクションの要素としてのコンピュータ、インタフェースのデザイン・評価について実習を交えて概説するとともに、先進的インタフェースについて紹介する。さらに、先進的インタフェースに関する自らの提案発表を通じて、ヒューマンインタフェースの本質を能動的に理解する。

※授業形態：オンライン同期型

授業計画

第１回：ヒューマンインタフェースの概要

第２回：情報システムとしての人間特性（１）認知特性

第３回：情報システムとしての人間特性（２）感性とインタラクション

第４回：インタラクションの要素としてのコンピュータ（１）入力機器とのインタラクション

第５回：インタラクションの要素としてのコンピュータ（２）出力機器とのインタラクション

第６回：インタフェースのデザイン・評価（１）デザインの技法

第７回：インタフェースのデザイン・評価（２）評価の技法

第８回：先進的インタフェースのトピックス（１）バーチャルワールド

第９回：先進的インタフェースのトピックス（２）リアルワールド

第１０回：先進的インタフェースの提案発表（1）テーマの設定 第１１回：先進的インタフェースの提案発表（2）調査 第１２回：先進的インタフェースの提案発表（3）資料の作成 第１３回：先進的インタフェースの提案発表（4）発表 第１４回：先進的インタフェースの提案発表（5）全体交流 第１５回：まとめ
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 西田正吾著、電子情報通信学会編：ヒューマンインタフェース、コロナ社 田村博編：ヒューマンインタフェース、オーム社
学生に対する評価 質疑応答・グループワークの学習態度（30%）とレポート・発表（70%）により評価する。

授業科目名： プログラミング言語I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河村　泰之
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

(授業のテーマ)

プログラミング言語

(授業の到達目標)

・プログラミングに必要な基礎知識を身につける

・条件分岐、繰り返し、配列、関数を使った基本的なプログラムを作成できる

・プログラムの間違ったところを特定（エラーやバグなどを発見）する方法を身につける

授業の概要

高等学校「情報」の免許科目である。前半はプログラミングに触れたことのない入門者を想定している。しかし、小学校からプログラミングを学んでいる高校生に授業をするには、入門でとどまるわけにはいかない。後半では与えられた課題について、各自で充分な時間を取って演習に取り組むことが求められる。

授業計画

第１回：ガイダンス、プログラミング環境の確認

第２回：簡単な式や変数の扱い

第３回：条件分岐

第４回：繰り返し

第５回：配列

第６回：関数

第７回：デバッグの考え方

第８回：試験または課題

第９回：試験または課題の解説

第１０回：演習課題１　例：複雑な条件分岐

第１１回：演習課題２　例：複雑なループ構造

第１２回：演習課題３　例：複雑な組み合わせ

第１３回：演習課題４　例：再帰関数

第１４回：演習課題５　例：参照渡しと値渡し

第１５回：試験または課題、まとめ
テキスト 必要な情報を web で示す。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 試験または課題（100%）

授業科目名： データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河村　泰之
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

（授業のテーマ）

　データ構造とアルゴリズム

（授業の到達目標）

・コンピュータで情報を処理する際に必要なデータ構造を理解する

・コンピュータで情報を処理するためのアルゴリズムの表現法を身につける

・よく知られている基本的なアルゴリズムを理解する

授業の概要

高等学校「情報」の免許科目である。コンピュータで情報を処理するための手順（アルゴリズム）に関する基本的な考え方を学ぶ。また、処理する際にデータをどのように蓄えられているかによって、処理の効率が変わってくることを経験し、その際に基本的なデータ構造を学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：アルゴリズムの記述

第３回：配列とリスト

第４回：スタックとキュー

第５回：グラフの表現

第６回：迷路の探索（深さ優先探索、幅優先探索）、およびその実習

第７回：木、平衡二分木、ヒープ

第８回：迷路の探索（ヒープを使った探索）、およびその実習

第９回：ハッシュ法

第１０回：ハッシュ関数

第１１回：ハッシュ法におけるデータの蓄え方、およびその実習

第１２回：最短経路問題

第１３回：最短経路を求めるアルゴリズム

第１４回：課題

第１５回：試験とまとめ

テキスト 浅野哲夫「データ構造」、近代科学社
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 期末試験（80%）および課題（20%）によって総合評価する。

授業科目名： 情報工学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：福谷　遼太 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）

コンピュータおよびネットワークの基本的な構成と動作原理に関する知識を修得する。

（授業の到達目標）

- コンピュータの基本的な構成と動作原理について説明できる。
- コンピュータ・ネットワークの基本的な動作原理について説明できる。
- コンピュータ・プログラムの基本的な動作原理について説明できる。

授業の概要

情報技術の基本的な仕組みや動作原理について扱う。授業形態はオンライン同期型と非同期型の併用を前提とし，実習を伴う内容はオンライン同期型にて実施する。

授業計画

第１回：オリエンテーション／近年の情報技術
第２回：教育の情報化
第３回：コンピュータの歴史
第４回：コンピュータシステムの基本構成と動作原理
第５回：情報の表現（2進法，10進法，16進法／数値データ，文字データ，音声・画像データ）
第６回：論理回路とCPU
第７回：記憶装置と周辺機器
第８回：機器選定の実践①　端末の選定
第９回：機器選定の実践②　選定した端末に関する発表
第１０回：OSとアプリケーション
第１１回：ネットワーク
第１２回：セキュリティ
第１３回：プログラムとアルゴリズム
第１４回：Scratchを用いたプログラミングによる問題解決の実践①　プログラムの実装
第１５回：Scratchを用いたプログラミングによる問題解決の実践②　実装したプログラムに関する発表
定期試験

テキスト

[必携] 安井 浩之，木村 誠聡，辻 裕之，″基本を学ぶ コンピュータ概論（改訂２版）″，オーム社，2019.

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末試験（60%），授業における課題への取り組み状況（30%），授業における質問・発問への応答（10%）で総合的に評価します。

授業科目名： 情報工学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 福谷　遼太・道法　浩孝・ 相良　宗臣 担当形態： 複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標
（授業のテーマ）
　システムやアプリケーションの設計理論について学習した上で，アプリケーション開発などの実習を通じて，システム・アプリケーション開発に関する知識・技能の修得・向上を図る。
（授業の到達目標）
- UIやレイアウトを考慮してアプリケーションを適切に設計できる。
- 設計したアプリケーションを開発することができる。
- プログラミングを通じて身近な課題を解決できる。

授業の概要
　Pythonを用いてアプリケーションを開発する。授業形態はオンライン同期型と非同期型の併用を前提とし，実習を伴う内容はオンライン同期型にて実施する。

授業計画
第１回：オリエンテーション（福谷・道法・相良）
第２回：さまざまな情報システム①　～IoT，VR，MR，AR～（福谷）
第３回：さまざまな情報システム②　～人工知能～（福谷）
第４回：さまざまな情報システム③　～学習支援システム／校務支援システム～（福谷）
第５回：さまざまな情報システム④　～身近なアプリケーション～（福谷）
第６回：システム開発　～設計理論～（福谷・道法・相良）
第７回：システム開発　～UI・色彩理論～（福谷・道法・相良）
第８回：システム開発　～要求分析～（福谷・道法・相良）
第９回：システム開発　～環境構築～（福谷・道法・相良）
第１０回：システム開発　～テキスト入力，ボタン設置～（福谷・道法・相良）
第１１回：システム開発　～画面遷移，権限～（福谷・道法・相良）
第１２回：システム開発　～外部ファイルの活用～（福谷・道法・相良）
第１３回：システム開発　～センサの活用～（福谷・道法・相良）
第１４回：システム開発　～実装～（福谷・道法・相良）
第１５回：システム開発　～成果発表～（福谷・道法・相良）
定期試験は実施しない。

テキスト
授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価
授業における課題への取り組み状況（60%），最終課題（30%），授業における質問・発問への応答（10%）により，総合的に評価します。

授業科目名： 情報システム(実習を含む。)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 曽根 直人 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標
情報システム及びシステム開発に関連する知識を習得し,プログラミングに関する実習を行う.
（授業の到達目標）
・情報システムの原理を科学的に説明できる.
・コンピュータを用いた計測・制御システムの構想・実装ができる.
・計測・制御システムを目的に応じて動作させるためのプログラミングを行うことができる.

授業の概要
情報システムについて学習し，身近な課題を解決するための情報システムの構想・実装に関する実習を行う.

授業計画
第1回:オリエンテーション
第2回:コンピュータシステム(1)(ハードウェア)
第3回:コンピュータシステム(2)(ソフトウェア)
第3回:コンピュータシステム(3)(ネットワーク)
第4回:情報システムの要素(センサの利用)
第5回:情報システムの要素(センサの接続)
第6回:情報システムの要素(Web技術 1，Webpage)
第7回:情報システムの要素(Web技術 2，JavaScript)
第8回:情報システムの要素(Web技術 3，JavaScriptによるセンサの利用)
第9回:情報システムの要素(Web技術 4，DBの利用)
第10回:情報システムの構想(1)(課題の発見)
第11回:情報システムの構想(2)(システムの設計)
第12回:情報システムの実装(1)(プログラムの制作)
第13回:情報システムの実装(2)(プログラムの実行とデバッグ)
第14回:情報システムの実装(3)(プログラムの修正)
第15回:講義のまとめ
定期試験

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する.

学生に対する評価
試験（40%），授業中の小テスト（20%），情報システムの成果（40%）

授業科目名： 情報技術（実習を含む。）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤　陽介 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業では，情報技術全般に関する基礎的な事項と情報システムに関係する技術について取り扱う。基礎的かつ共通的な情報技術及び情報システムの設計から利用に至る技術を修得ことを目標とする。

授業の概要

情報技術の急速な発展に伴い生活や社会において様々な情報システムが稼働し実生活に欠かせないものとなっている。本授業では，情報技術全般に関する基礎的な事項と情報システムに関係する技術について講義するとともに，情報の表現や処理技術及び情報システムの設計から利用に至る実習を行う。

授業計画

第１回：情報通信革命と情報科学
第２回：情報の表現技術（１）整数，補数，実数等
第３回：情報の表現技術（２）誤差，画像，映像等
第４回：情報の処理技術（１）論理回路，加算回路等
第５回：情報の処理技術（２）ＣＰＵ，メモリ等
第６回：情報システムの設計
第７回：情報システムの管理
第８回：情報システムの運用
第９回：情報システムの利用
第１０回：情報通信ネットワークの基礎
第１１回：情報通信ネットワークの機器
第１２回：情報通信における暗号化技術
第１３回：情報セキュリティ技術
第１４回：教育用情報システムの構築例
第１５回：情報技術の総括と今後の展望

テキスト

適宜，資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし
学生に対する評価 レポート（２５％），実習への取り組み（２５％），筆記試験（５０％）

授業科目名： 計測・制御システムの設計	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大西　義浩 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム(実習を含む。)		

授業の到達目標及びテーマ

(授業のテーマ)

コンピュータによる計測と制御を題材として，その関連技術を取り扱う。

(授業の到達目標)

・センサの役割を理解する。

・ＡＤ変換の原理を理解する。

・システムのモデル化とその特性を理解する。

・制御目的にあったＰＩＤ制御のパラメータ調整ができる。

授業の概要

本授業は，数学，電気，情報関連の知識をベースとして，身の回りの機器がどのような仕組みで動いているのかを学ぶものである。現在，コンピュータの普及，低価格化に伴い，自動車や家電など多くの機器にコンピュータが組み込まれている。これらはセンサによって周囲の状況を計測し，その情報に基づいて制御を行っている。本授業では，身のまわりの機器がどのように計測し，制御されているかを理解する。アナログ信号とディジタル信号の違い，センサによる計測，システムの特性，ＰＩＤ制御系設計などについて学習する。

授業計画

(同期型) 以外は非同期遠隔授業として実施する。

第１回：ガイダンス

第２回：ハードとソフト，制御とは

第３回：センサ

第４回：AD変換の原理

第５回：モデリングとシミュレーション

第６回：システム同定

第７回：システムの安定性

第８回： 1次遅れ要素，2次遅れ要素

第９回：制御系設計の実習（同期型）

第１０回：比例制御の実習（同期型）

第１１回：定常偏差と積分動作の実習（同期型） 第１２回：過渡特性の改善と微分動作の実習（同期型） 第１３回：ＡＩと計測制御 第１４回：計測制御技術の応用とSociety5.0への貢献 第１５回：期末試験とまとめ（同期型）
テキスト 教材を web 上で配布する。
参考書・参考資料等 なし。
学生に対する評価 期末試験（50%）および小テスト，課題（50%）によって総合評価する。

授業科目名： 情報システム開発演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 道法　浩孝 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）

コンピュータシステム及び計測・制御システムを中心に，情報システムに関する知識と，システム開発及びプログラミングに関する技術を習得する．

（授業の到達目標）

・情報システム（コンピュータシステム及び計測・制御システム）を科学的原理・法則に基づいて説明できる．
・コンピュータを用いた計測・制御システムの設計・実装ができる．
・計測・制御システムを目的に応じて動作させるためのプログラミングを行うことができる．

授業の概要

具体的なシステムに基づいて，コンピュータシステム及び計測・制御システムについて学習するとともに，計測・制御システムの設計・実装及びプログラミングに関する実習を行う．

授業形態：オンライン同期型，実習部分は対面（集中講義）で実施。

授業計画

第１回：オリエンテーション，情報システム
第２回：情報システム（１）（ハードウェア）
第３回：情報システム（２）（ソフトウェア）
第４回：情報システム及び計測・制御システムの仕組み
第５回：計測・制御システム（１）（センサ，インタフェース）
第６回：計測・制御システム（２）（アクチュエータ等，インタフェース）
第７回：情報システム及び計測・制御システムにおけるコンピュータによる情報処理の仕組み
第８回：計測・制御システムの設計（１）（問題発見と課題設定）
第９回：計測・制御システムの設計（２）（センサ，コンピュータ及びアクチュエータ等）
第１０回：計測・制御システムの実装（１）（センサ及びアクチュエータ等）
第１１回：計測・制御システムの実装（２）（システム全体の実装）
第１２回：計測・制御システムに対するプログラミング（１）（プログラムの制作）
第１３回：計測・制御システムに対するプログラミング（２）（プログラムの実行とデバッグ）
第１４回：計測・制御システムに対するプログラミング（３）（プログラムの修正）
第１５回：講義のまとめ
定期試験

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する．

学生に対する評価

試験（３０％），レポート（３０％），計測・制御システムとプログラムの成果（４０％）

授業科目名： 情報通信（実習を含む。）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 曽根直人，美井野優
			担当形態： 複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標
情報通信ネットワークについての基礎知識及び技術を習得する.
(到達目標)
通信を支える基礎技術についての理解
学校用のネットワークを設計できるようになる

授業の概要

情報通信の基礎技術を習得し，その技術を応用して学校教育用のネットワークを設計を行う.

授業計画
第1週　オリエンテーション
第2週　情報の符号化,通信,復号化1(基礎)
第3週　情報の符号化,通信,復号化2(文字や画像の符号化)
第4週　誤り訂正(パリティ符号,水平垂直パリティ符号,ハミング符号)
第5週　インターネット1(パケット交換網)
第6週　インターネット2(階層モデル)
第7週　インターネット3(物理層,Ethernet, Wifi)
第8週　インターネット4(トランスポート層)
第9週　インターネット5(アプリケーション層)
第10週 ネットワークのセキュリティ(暗号化)
第11週 ネットワークのセキュリティ(認証)
第12週 クラウドサービス
第13週 学校教育用ネットワークシステムの設計1
第14週 学校教育用ネットワークシステムの設計2
第15週 全体のまとめ
定期試験

テキスト

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

試験（70%），授業中の小テスト（30%）

授業科目名： 情報ネットワーク演習(実習を含む。)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 曽根 直人 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

情報ネットワークの基礎となるIPネットワークについての知識を習得する.

(授業の到達目標)

・IPネットワークの基礎を理解し,簡単なネットワークの構築や問題解決ができるようになる.

授業の概要

IPネットワークの仕組みについて学習し，シミュレーターを使って簡単なネットワークの構築を行う.

授業計画

第1回 オリエンテーション(どうしてネットワークを利用するのか?)
第2回 ネットワークの基礎知識
第3回 ネットワーク階層モデルについて
第4回 IPネットワークの基礎(アドレス，サブネットマスク)
第5回 IPネットワークの基礎(ルーティング)
第6回 IPネットワークの基礎(ルーティング2)
第7回 IPネットワークの基礎(ルーティング3)
第8回 TCP/IPの基礎
第9回 TCP/IPの制御(パケットフィルター)
第10回 TCP/IPのアプリケーション(E-Mail, WWW)
第11回 ネットワークの設計(シミュレーターによる模擬ネットワークの作成手順)
第12回 シミュレーターによるネットワーク構築(1)単独のルータによるネットワーク.
第13回 シミュレーターによるネットワーク構築(2)複数のルータから構成させるネットワーク
第14回 シミュレーターによるネットワーク構築(3)アプリケーションの動作を確認する
第15回 まとめ
定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する.

学生に対する評価

試験（70%），授業中の小テスト（30%）

授業科目名： 情報通信 ネットワーク論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：相良　宗臣 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）

高等学校の「情報」における「情報の科学的な理解」に必要な情報通信ネットワークについて学習する。特に，情報通信ネットワークにおける通信方法およびセキュリティ対策に関して学習を行う。

（授業の到達目標）

1. 情報通信ネットワークの仕組みや特徴を正しく理解できる。
   - スマートフォンや無線ＬＡＮなどワイヤレス通信の仕組みや特徴，セキュリティについて説明できる。
   - インターネットの全般的な仕組みや特徴，セキュリティを確保するための手法を説明できる。
   - 基本的なネットワークの構築ができる。
2. 情報ネットワークおよび提供されるサービスを効率的かつ安全に使用できる。

授業の概要

身近にある通信機器がどのように通信を行っているかを理解する。また，情報ネットワークを実践的に活用するために必要な基本的な知識および技術を修得する。

授業形態：オンライン同期型

授業計画

第１回：ガイダンス，情報通信の基礎(定義，歴史，通信モデル)
第２回：情報の伝送方法（変調，多重化）
第３回：情報のスイッチング方法（回線，パケット）
第４回：モバイル･ワイヤレス通信の基礎（進展，周波数）
第５回：携帯電話(スマートフォン)の基本方式（認証，位置情報，チャネル切り替え）
第６回：ＬＡＮの概要とイーサネット（歴史，トポロジー）
第７回：ワイヤレスＬＡＮの概要（規格，セキュリティ対策）
第８回：インターネットの概要（仕組み，歴史，標準プロトコル）
第９回：インターネットの通信プロトコル（TCP/IP，各階層の構成）
第１０回： インターネットの通信プロトコル（TCP/IP，インターネット層）
第１１回：ＩＰアドレスとルーティング（NAT･PAT，サブネット，OSPF，RIP）
第１２回：ネットワーク構築（実習）
第１３回：インターネットのセキュリティ（概要，暗号）
第１４回：インターネットのセキュリティ（認証方式，その他）
第１５回：まとめ（期末試験の注意，関連トピック，キーワード）
定期試験

テキスト

授業時に資料の配布を行う

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

中間ﾚﾎﾟｰﾄ（35 点），期末試験（35 点），毎回の課題（30 点）

授業科目名： マルチメディアと教育技術（実習を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阪東哲也 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

本講義を通じて、高等学校・情報科教育に必要な基礎的情報教育能力を学ぶことで、教育現場に出ても最新の技術動向に十分対応できる能力を身につけることを目的とする。多角的な観点からの情報教育教材開発に関した講義を行う。更にVBAやHTML等の簡易的なプログラミング言語やビジュアルプログラミング言語の学習を行いながら、マルチメディア教育にも対応可能な実験的な教材開発を行うものである。

【到達目標】

①基礎的な情報教育を他者に説明できる。②自らが応用的なプログラミングができる。③高等学校・情報科教育での「マルチメディア情報教育」を教えることができる。

授業の概要

・情報教育における基本的知識を再度見直した上で、情報教育の課題を討議する。

・最近のインターネットの発展を通した問題点を通して情報教育における問題考察を行う。

・著作権問題を通して学校教育における注意点に関して討議を行う。

・情報教育における基礎的なマルチメディア学習を行い、情報教育の教材を討議する。

・開発した教材を用いてプレゼンテーションを行い、相互評価を通してその考察を行う。

授業計画

第１回：マルチメディアと教育技術について

第２回：情報教育とインターネットの活用

第３回：情報モラル教育（学校教育における著作権）

第４回：ビジュアル型プログラミングによる教材の構想・製作1

第５回：ビジュアル型プログラミングによる教材の構想・製作2

第６回：テキスト型プログラミングによる教材の構想・製作1

第７回：テキスト型プログラミングによる教材の構想・製作2

第８回：拡張現実(AR)を取り入れた教材の構想・製作1

第９回：拡張現実(AR)を取り入れた教材の構想・製作2

第１０回：これまでの課題の発表と評価

第１１回：問題解決プロセスと技術教育

第１２回：情報科教育におけるマルチメディア教材の構想・製作1

第１３回：情報科教育におけるマルチメディア教材の構想・製作2

第１４回：製作したマルチメディア教材の評価と考察 第１５回：これからの情報科教育に関して（総括）
テキスト 適宜，資料を電子ファイルとして配布する。
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領，同解説
学生に対する評価 授業態度，実習への取り組み等を総合的に判断する。

授業科目名： マルチメディア技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮﨑　英一 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む）		

授業の到達目標及びテーマ

（授業のテーマ）

最近、Society5.0やAIといった新しい情報世界が我々の日常生活に訪れている。これらの進展に伴い、マルチメディア技術も日々急速に発展し続けており、学習指導要領の「マルチメディア表現」 においてもこれらに対応できる人材の育成が望まれている。本講義では、基礎的なマルチメディア作品の制作を通じて、今後のマルチメディア技術に対応できる人材の確立をめざす。

（授業の到達目標）

1. マルチメディア技術の基礎的な知識を理解できる。
2. 基本的なマルチメディア作品を作成できる。
3. マルチメディアを通して情報社会の問題を考えることができる。

授業の概要

本講義は、高校専門教科「情報」の各科目において習得した知識とプログラミング技術を互いに連携づけながら初歩的なマルチメディアを活用した作品の制作を行う。この制作において、従前に各科目で習得した知識とプログラミング技術を生かしてマルチメディア技術の特性を生かした作品を制作し、これを通じて情報の基礎的知識やプログラミング技術の体得を目指す。更には、本講義を通して実際の「情報」授業に活用できる能力や態度を涵養する。

※授業形態：オンライン同期型

授業計画

第１回：　マルチメディアとは　デジタルメディアについて
第２回：　マルチメディアとインターネット　マルチメディアでの著作権
第３回：　体験的コンピュータシミュレーション（水の流れ）
第４回：　体験的コンピュータシミュレーション（きつねとうさぎの生息数）
第５回：　VBAによるプログラミング学習（マクロの応用）
第６回：　VBAによるプログラミング学習（VBAによるエクセル制御）
第７回：　ビジュアルプログラミングの学習（応用課題作成）
第８回：　これまでの応用課題の発表と評価

第９回：　Scratchを用いてAIで音声・画像認識基礎（Teachable Machineを用いて） 第１０回：Scratchを用いた学習進度に応じてレベルアアップする計算ドリルの作成 第１１回：Scratchを用いた多言語案内板の作成 第１２回：マルチメディア作品コンペ　オリジナルのマルチメディア作品を考える 第１３回：マルチメディア作品制作　オリジナルのマルチメディア作品基礎作成 第１４回：マルチメディア作品制作　オリジナルのマルチメディア作品拡張追加 第１５回：マルチメディア作品制作発表と評価　オリジナルのマルチメディア作品発表
テキスト　授業中にマルチメディア教育の基礎となる資料及びWEB上の動画のURL等適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 出席態度及び発言貢献度（30%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）、 最終課題（40%）

授業科目名： デジタル画像処理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田　勉
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

（授業のテーマ）

デジタル画像処理とは，コンピュータで認識した画像に様々な処理を施すことによってその画像に含まれる情報を読み取る技術であり，種々の情報処理システムにおいて広く用いられている．ここでは，画像情報処理の基本ついて概説する．

（授業の到達目標）

画像情報処理の基本ついて様々な手法を理解し，生徒に説明できるように理解する．

授業の概要

デジタル画像処理とは，コンピュータが取得した画像情報を読み取り，各種処理を通してユーザーに認識させることである．このとき，画像の取得から処理の仕組みまで概説する．さらに3時限グラフィックスの基本的試行について解説する．※授業形態：オンライン同期型

授業計画

第１回：本講義の意義と目的について知る

第２回：画像処理の基本1，デバイスの概要

第３回：画像処理の基本2，計測環境と照明

第４回：画像処理の基本3，色彩

第５回：基本的な画像処理手法1，輝度分布（ヒストグラム）

第６回：基本的な画像処理手法2，二値化，多極化画像

第７回：基本的な画像処理手法3，画像の数学的考察

第８回：基本的な画像処理手法4，雑音除去（平滑化処理，ノイズフィルタ）

第９回：基本的な画像処理手法5，エッジ処理（微分），細線化，輪郭線抽出

第１０回：基本的な画像処理手法6，各種フィルタ

第１１回：点，直線の画像認識手法

第１２回：各種形状の画像認識手法

第１３回：2次元画像処理の応用

第１４回：3次元画像処理（コンピュータグラフィックスの基礎）

第１５回：3次元画像処理（CADにおける論理演算）

テキスト 大崎紘一他，画像認識システム学
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 各講義時間毎のレポート提出（５０％），ならびに，実習結果（５０％）により評価を行う．

授業科目名： 情報変革と職業	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：山口　直木 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業		

授業のテーマ及び到達目標

【テーマ】

・デジタル社会における職業や職業に対する考え方の変化

・デジタル社会での教育と職業指導の変化

【到達目標】

・デジタル化による社会の変化

・デジタル社会における職業や職業に対する考え方の変化

・デジタル社会での教育と職業指導の変化

以上の事項を理解し，その内容を生徒に指導できるようになること。

授業の概要

　デジタル社会で必要となる技術や知識，それに伴う職業の変化を講義し，それらによる教育現場の変化と職業指導への影響を解説する。

授業計画

第１回：社会・企業におけるデジタル化の現状

第２回：政策としてのデジタル化

第３回：デジタル化を支える技術：AI，IoTなど

第４回：デジタル化を支える技術：セキュリティ，ネットワークなど

第５回：デジタル化を支える技術：プログラミングなど

第６回：デジタル化を支える技術：データ分析など

第７回：デジタル社会での働き方

第８回：デジタル社会で必要となる人材

第９回：デジタル社会で働く意味

第１０回：デジタル社会で生きる職業人の考察

第１１回：教育現場のデジタル化の実例

第１２回：デジタル社会での教育現場の変化：技術，設備，人材育成など

第１３回：デジタル社会での教育現場の変化：セキュリティ，個人情報など

第１４回：教育現場のデジタル化と職業指導への影響

第１５回：全体のまとめとレポートによる振返り

定期試験は行わない。

テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 文部科学省『高等学校学習指導要領』2019年
学生に対する評価 授業におけるレポート課題の内容によって評価する.

教科に関する科目：シラバス

授業科目名： 情報・職業	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 黒田　勉
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・情報と職業

授業のテーマ

情報社会での生活、情報社会と高等教育、情報技術と社会の変革、情報技術と人材育成、国際化、メディアの活用について概説し，就職・進路指導方法について、情報化社会を高校生に理解させる方法について理解する。

授業の到達目標

各項目についての内容を，生徒に指導できるようになること.

授業の概要

本講義の意義を解説する。そして、情報社会での生活、情報社会と高等教育、情報技術と社会の変革、情報技術と人材育成、国際化、メディアの活用について概説する。

授業計画

第１回：情報化社会と職業：本講義の意義
　　自己学習課題：何故教職を目指すのか
第２回：情報化社会と職業：産業界の体質変化
第３回：情報化社会と職業：職業指導と雇用制度
第４回：情報化社会と私たちの生活：危機管理
第５回：情報化社会と私たちの生活：高齢化社会と学習社会
第６回：情報化社会と高等教育：生涯学習
第７回：情報化社会と高等教育：授業計画の作成
第８回：情報技術と社会の変革：情報と情報通信技術
第９回：情報技術と人材育成：資格とその認知・情報産業
第１０回：情報社会と国際化/グローバル化：情報技術革命とは・インターネット
第１１回　情報社会と国際化/グローバル化：国際規格とグローバル化
　　自己学習課題：指導案の立案
第１２回：情報社会と国際化/グローバル化：ビジネスモデルと倫理
第１３回：情報技術とメディアの活用：情報技術を利用した協働
第１４回：情報技術とメディアの活用：情報技術と消費行動
　　自己学習課題：情報化社会について
第１５回：情報技術とメディアの活用：知的財産の保護と活用
　　自己学習課題：相互評価を行う

テキスト

近藤勲編著，情報と職業，丸善，2002

参考書・参考資料等

文部科学省学習指導要領「高等学校・情報」，「中学校・技術家庭科」（最新年度のもの）

学生に対する評価

必要に応じて演習・討論を行ったレポートの提出，講義末の課題に対するレポートによる.

授業科目名 情報社会の発展と職業	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大西　義浩 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業		

授業の到達目標及びテーマ

（授業のテーマ）

情報と職業

（授業の到達目標）

以下の項目を理解し，

・情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響

・望ましい情報社会の発展

・情報社会の将来と情報産業

情報化により生活や社会がどう変わり，どのような職業が出現したかを考える。

授業の概要

高等学校「情報」の免許取得に必修の科目である。情報技術が実社会でどのように使われており，また，情報関連の職種にはどのようなものがあるかを知ることで，「情報」の教員としての授業実践力および生徒への進路指導等を行なえる能力を身につけることを目的としている。

授業計画

（同期型）以外は非同期遠隔授業として実施する。

第１回：ガイダンス

第２回：情報技術の発展と社会の変化

第３回：サービス業における情報技術

第４回：製造業における情報技術

第５回：社会基盤における情報技術

第６回：グループワーク（課題説明・戦略作成）（同期型）

第７回：グループワーク（設備の検討）（同期型）

第８回：グループワーク（維持コスト検討）（同期型）

第９回：グループワーク（リスク検討）（同期型）

第１０回：グループワーク（発表準備と仕上げ）（同期型）

第１１回：情報技術発展に伴う負の面について（非同期）

第１２回：情報関連の職種とキャリアパス（非同期）

第１３回：進路指導について（非同期） 第１４回：模擬面接指導（同期型） 第１５回：期末試験とまとめ（同期型）
テキスト 教材を web 上で配布する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 期末試験（40%）およびグループワークを含む課題（60%）によって総合評価する。

授業科目名： 情報科教育法１	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 黒田勉、河村泰之 担当形態： 複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

（授業のテーマ）

情報科教育法１

（授業の到達目標）

・高等学校の教科「情報」の教育目標を理解する

・小中学校との関連、総合的学習における位置づけなどを意識し、情報社会における教育課題に対応できる高校教員になるための態度を養う

授業の概要

高等学校「情報」の免許取得に必修の科目である。教科「情報」の成り立ちを概観し、情報教育に求められていることを学ぶ。また，教科で扱う内容の基本事項を確認する。その上で、指導案を作成し、授業づくりについてポイントを整理する。

授業計画

第１回　ガイダンス，学習指導要領の概説と教員養成の仕組み

第２回　情報科の成立過程と科目編成

第３回 「情報I」で扱う内容

第４回 「情報I」での学習

第５回 「情報II」で扱う内容

第６回 「情報II」での学習

第７回　課題学習「特色ある情報教育の取り組みの調査」

第８回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報産業と社会」を中心に

第９回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報の表現と管理」を中心に

第１０回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報セキュリティ」を中心に

第１１回 専門教科「情報」で扱う内容：「情報テクノロジー」を中心に

第１２回 指導計画案の作り方（情報通信技術の活用を含む）

第１３回 指導案の検討，指導上の注意や指導内容のポイント整理（情報通信技術の活用を含む）

第１４回 評価について

第１５回 試験とまとめ

テキスト 文科省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 情報編」
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 期末試験（４０％）および課題（６０％）によって総合評価する。

授業科目名： 情報科教育特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：森山　潤 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

高等学校共通教科「情報」の実践に向けた基礎的な指導力を習得するために、学習内容を理解し、題材設定、教材研究の視点を身につける。

授業の概要

高等学校共通教科「情報」の目標、学習内容、カリキュラム構成の考え方などを講義すると共に、具体的な教材研究について演習を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション、社会の変化に対応した新しい情報教育の考え方
第２回：高等学校共通教科「情報」の目標、科目構成
第３回：科目「情報Ⅰ」，科目「情報Ⅱ」の主な学習内容
第４回：[演習] 科目「情報Ⅰ」、「情報Ⅱ」の研修資料調べ
第５回：情報社会の問題解決に関する教材研究
第６回：情報デザインに関する教材研究（1）～コミュニケーションと情報デザインの考え方～
第７回：情報デザインに関する教材研究（2）～教材例：Webページの情報デザイン～
第８回：プログラミングに関する教材研究（1）～体系的なプログラミング教育の考え方～
第９回：プログラミングに関する教材研究（2）～教材例：Microbit×Pythonなど～
第１０回：統計・データサイエンスに関する教材研究（1）～データの活用～
第１１回：統計・データサイエンスに関する教材研究（2）～データの分析～
第１２回：科目「情報Ⅰ」，科目「情報Ⅱ」の特性に応じたICTの活用とデジタル学習環境
第１３回：[演習]マイクロティーチング準備
第１４回：[演習]マイクロティーチングの実施と授業改善の視点～前半チーム～
第１５回：[演習]マイクロティーチングの実施と授業改善の視点～後半チーム～，全体のまとめ

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省　高等学校情報科　研修資料

学生に対する評価

演習課題及びマイクロティーチング60%、授業における活動状況及びポートフォリオ40%

授業科目名： 情報科教育授業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：森山　潤 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

高等学校共通教科「情報」の実践に向けて、授業デザイン、学習評価の視点を身につけ、学習指導案として具体化できる力を習得する。

授業の概要

高等学校共通教科「情報」の授業デザイン、指導計画の立案方法、学習評価の考え方などを講義すると共に、マイクロティーチングについて演習を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション、高等学校共通教科「情報」の目標、内容の確認
第２回：共通教科情報科の授業デザイン
第３回：共通教科情報科の学習評価
第４回：[演習] 科目「情報Ⅰ」、「情報Ⅱ」の実践事例調べ
第５回：[演習] 実践事例プレゼンテーション(「情報Ⅰ」)
第６回：[演習] 実践事例プレゼンテーション(「情報Ⅱ」)
第７回：共通教科情報科における題材設定
第８回：共通教科情報科における単元の指導計画の立て方
第９回：共通教科情報科における学習指導案
第１０回：[演習] 学習指導案作成1(目標、単元構成、教材観)
第１１回：[演習] 学習指導案作成2(生徒観、指導観、展開計画、評価)
第１２回：[演習]マイクロティーチング準備
第１３回：[演習]マイクロティーチング（1）～前半チーム～
第１４回：[演習]マイクロティーチング（2）～後半チーム～
第１５回：[演習]マイクロティーチングの振り返り、全体のまとめ

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省　高等学校情報科　実践事例集

学生に対する評価

演習課題及びマイクロティーチン60%、授業における活動状況及びポートフォリオ40%

授業科目名： 教育実践基礎演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 湯口雅史 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

本授業では，教員として必要な資質能力を自己内で育成する意義を理解させ，今後の実践知を養うことを目的とする授業（各教科法（模擬授業を含む）及び教育実習，教職実践演習）への見通しをもつことができる。さらに，基本的な教授スキルや授業のマネジメントへの理解を深め，これらの実践的な理解を，今後の学びに繋げることを目的とする。

授業の概要

前半では，学習指導要領にある，児童・生徒に育まなければならない資質能力を理解し，これらの力を育むための教員としての力（実践力や人間力力等）が身に付いているか認識，自己課題をもつ。

後半では，授業のマネジメント力や授業展開力の育成を目的とした，授業づくりやマイクロティーチングを体験する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業の概要説明）
第２回：学習指導要領の存在と意味の理解
第３回：児童生徒観と育成する資質能力の理解
第４回：教員に求められている力の理解
第５回：教員として必要な資質能力自己診査（N-CBT）
第６回：学習指導要領を具現化する授業づくり
第７回：マイクロティーチングを自己課題の生成
第８回：マイクロティーチングを自己課題の生成
定期試験　授業内容から提示される課題についてのレポート

テキスト

文部科学省　小学校学習指導要領（2018），中学校学習指導要領(2018)

参考書・参考資料等

適宜，資料を配付

学生に対する評価

学習への取り組み，準備資料の内容，レポート内容を総合的に判断する。

授業科目名： ICT活用教科教育実践 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 阪東哲也 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

・（MetaMoJiなどの）授業支援アプリを活用して教師と生徒間での情報共有を図り，効果的な授業を実践できるようになる。

・技術科における各分野の授業展開に適したICT機材，ソフトウェア，デジタル教科書等を活用して，効果的な授業を実践できるようになる。

授業の概要

・学校現場における授業支援アプリの活用方法と事例を知る。

・授業支援アプリを活用した技術科の授業方法を検討し実践する。

・技術科の各分野に関して，ICTを活用した授業方法を検討し実践する。

授業計画

第１回：技術科における授業支援アプリ活用の事例紹介
第２回：技術科における授業支援アプリ活用方法の検討
第３回：木材・金属加工分野におけるICT活用授業の検討と実践(1)
第４回：木材・金属加工分野におけるICT活用授業の検討と実践(2)
第５回：機械・電気分野におけるICT活用授業の検討と実践(1)
第６回：機械・電気分野におけるICT活用授業の検討と実践(2)
第７回：情報とコンピュータ分野におけるICT活用授業の検討と実践(1)
第８回：情報とコンピュータ分野におけるICT活用授業の検討と実践(2)

テキスト

適宜，資料を配布する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成29年告示)，中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　技術・家庭編

学生に対する評価

模擬授業等の準備状況や内容，態度などを総合的に評価する。

3分の2以上の出席がない者は評価しない。

授業科目名： 性に関するダイバーシティ教育論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 葛西真記子 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

【授業の目的】今日の学校現場には性別，性的指向など性に関するダイバーシティが存在し，児童・生徒には，これらの違いを受け入れ，互いの個性を認め，活かそうとする考え方や姿勢を育むことが重要な教育課題となっている。本授業では，特にセクシュアリティやジェンダーに関わるダイバーシティを取り上げ，教員の授業によって基本的知識を身につけ，学校現場の現状と課題を理解した上，授業内容をベースにしたグループワークやディスカッションによって前述の教育課題を達成するための具体的な教育的処遇を具体化できる力を身につけることを目的とする。

【到達目標】１．学校現場でセクシュアリティやジェンダーに関わるダイバーシティに関する現状と課題について十分に理解する。２．児童・生徒にセクシュアリティやジェンダーに関わるダイバーシティに関する違いを受け入れ，個性を認め，活かそうとする姿勢を育む手立てを具体的にイメージできる。

授業の概要

本講義は性に関するダイバーシティを理解することによって、学校現場全体、児童生徒、保護者へ適切に支援できるよう知識とスキルを学ぶ。またこれまでの性教育の歴史、現代の課題、性被害について具体的かつ実践的に学ぶ。

学修課題

１．セクシュアリティやジェンダーに関するダイバーシティについて学び，性教育との関連や、性被害やＤＶも含めた現状と課題について理解する。

２．セクシュアリティやジェンダーに関するダイバーシティ教育の重要性や意義について説明する。

３．セクシュアリティやジェンダーに関するダイバーシティに対する偏見や差別がいかに不合理なものであるかについて説明する。

４．児童・生徒にセクシュアリティやジェンダーに関するダイバーシティに関わる違いを受け入れ，個性を認め，活かそうとする姿勢を育むための教育実践を具体的に考案する。

５．性教育、性被害との関連を理解し、支援の方法を身に着ける。

授業計画

第１回：オリエンテーション：性教育、セクシュアリティとジェンダー

第２回：多様なセクシュアリティとジェンダーについて

第３回：多様な性と人権 第４回：多様な性について学校全体での支援 第５回：多様な性について個別児童生徒への支援 第６回：多様な性について保護者への支援 第７回：性教育と性被害について 第８回：性に関するダイバーシティ教育の今後の課題 定期試験
テキスト 「LGBTQ+の児童生徒学生への支援」葛西真記子編著　誠信書房
参考書・参考資料等 「セクシュアルマイノリティへの心理的支援」針間克己・平田俊明編著
学生に対する評価 授業後のリアクションペーパー（20%）、授業内の討議（10%）、最終レポート（20%）

授業時間以外の学習

授業科目名： グローバル化・多文化化時代の学校教育	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石村雅雄 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

本授業は、本学が掲げる「グローバル教員」に皆さんがなっていくための素養を身につけ、かつ、日本そして諸外国の「現場」で「グローバル教員」として活躍・実践できる課題を自ら見出してもらうことを目的としている。

【到達目標】

１．日本における国際理解教育・異文化（多文化）理解教育に関する現状と課題について理解し、自らの専門教科に則して実践案を提示できる。

２．外国、とりわけ、発展途上国の教育の発展のために教員である自分、そして、日本が何をできるのかを考え、それをどのように伝え、どのように指導・助言していくかの実践例を提示できる。

３．日本語教育の視点から自らの専門の教科を考える。

授業の概要

この授業の概要は次の2つにまとめられる。まず第1は、「うち」のグローバル化への対応という内容である。今日の日本の教室では、もはや、外国にルーツを持つ子どもたちがいることは決して珍しいことではない。こうした子どもたちにどう向き合い、学習を支援していくかは極めて重要な実践的課題である。また、日本の子どもたちにとっても、国際理解教育、異文化理解教育を進めていくことが重要なことは言うまでもない。第2の内容は、「そと」でのグローバル化への対応という側面である。とりわけ、発展途上国において、「日本型教育」からの助言・支援が求められており、特に本学はこの分野で長くかつ深い実績を持っている。こうした要求に応え、実践できる教員にもなって欲しいというのが、本講義を担当する教員の切なる願いなのである。

授業計画

第１回：オリエンテーション：「グローバル教員」の重要性　学習指導要領にはどう書かれているか

第２回：国際理解教育、異文化理解教育の現状と課題

第３回：「日本型教育」は何故世界に受け入れられているのか①　世界から見た日本の教育・教員

第４回：「日本型教育」は何故世界に受け入れられているのか②　実際に外国の先生に聞いてみよう

第５回：外国の現場ではどのように教えられているのか（各教科に則して）そして、あなたはどう教えるか？

第６回：外国にルーツをもつ子どもたちに対する教育支援の現状と課題

第７回：外国にルーツをもつ子どもたちに対する日本語指導の現状と課題 第８回：定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜指示する
学生に対する評価 授業での発言回数・内容（30%）と定期試験の点数（70%）。

授業科目名： 学校教育心理学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 皆川直凡 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

学校教育の主たる対象である子どもを理解するための心理学的知見，および教育上の諸問題について，経験的に理解しながら考究し，関連知識の深化と発展をはかることにより，教職志望の学生が将来，教育活動を効果的に推進するうえで必要不可欠な知識や方法，そして考え方を修得できるようにする。

本授業では，下記の到達目標を設定する。

１．子どもの内面と現代の子どもが抱える問題を理解するための理論と方法を修得する。

２．教員としての職務や義務を自覚し，その自覚に基づいて，目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。

授業の概要

子どもの内面を理解するための検査や実験を体験し，現代の教育課題について考察・議論する。また，教員としての職務や義務に関わる実技演習をとおして自己省察を行い，「目的や状況に応じた適切な言動をとることができる」という観点からスキルアップを図る。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業概要・到達目標，授業の進め方・方針）

第２回：自分を知るー教員としての資質・能力を省察するー（１）アイデンティティ（自我同一性）とその確立

第３回：自分を知るー教員としての資質・能力を省察するー（２）言語の理解（漢字と仮名の処理）ー脳と心ー

第４回：自分を知るー教員としての資質・能力を省察するー（３）ヒューマン・エラー

第５回：自分を知るー教員としての資質・能力を省察するー（４）思考の誤り

第６回：スキル・アップー教員としての資質・能力を向上させるー（１）話を聞く技法ー傾聴，カウンセリング・マインドー

第７回：スキル・アップー教員としての資質・能力を向上させるー（２）表現の技法①集団討論（１回目）

第８回：スキル・アップー教師としての資質・能力を向上させるー（３）表現の技法②集団討論（２回目）

第９回：スキル・アップー教師としての資質・能力を向上させるー（４）社会的スキル，ストレスとその対応

第１０回：「前半のまとめとふりかえり」 第１１回：学校教育への心理学的アプローチー教師の観点から子どもをみるー（1）セルフ・エフィカシー 第１２回：学校教育への心理学的アプローチー教師の観点から子どもをみるー（2）学習と適応 第１３回：学校教育への心理学的アプローチー教師の観点から子どもをみるー（3）思いやり 第１４回：学校教育への心理学的アプローチー教師の観点から子どもをみるー（4）心を写す「俳句」 第１５回：「全体のまとめとふりかえり」
テキスト テキストは使用しない。
参考書・参考資料等 次の２冊の書籍を参考書として用いるほか，必要に応じて授業中に指示する。 『教育心理学研究の技法』（大村彰道／編著，福村出版刊） 『心理・教育のための統計法　第２版』（山内光哉／著，サイエンス社刊）
学生に対する評価 出席状況，演習への取組み態度，レポートの内容により，総合的に評価する。

授業科目名： 学校経営と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 黒田麻衣子 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

学校図書館の経営や運営に関する知識や技術を習得することを目的とする。図書館経営に関しては、学校図書館関係の法規・規準、学校図書館に関する施策、学校図書館の歴史的な発展、学校図書館経営の実際について述べる。図書館運営に関しては、学校図書館メディアの種類とその特性、メディアの複製（著作権）、学校図書館活動の意義及び活動計画等について、さらに地域の図書館との相互協力ネットワークについて述べる。

【到達目標】

将来、現場に出たときに、司書教諭として学校図書館を経営していける能力を養う。

授業の概要

・学校経営における学校図書館の役割を具体的に思い描く。

・学校図書館の役割を教育施策との関わりを踏まえて考える。

・図書館教育担当・司書教諭の任務と役割を体験的に理解する。（ワークショップ）

授業計画

第１回：学校図書館の理念と教育的意義

第２回：学校図書館の発展と課題

第３回：制度としての学校図書館

第４回：学校図書館の発展と役割

第５回：教育課程と学校図書館

第６回：学校図書館の経営⑴

第７回：学校図書館の経営⑵

第８回：学校図書館メディアの種類とその特性

第９回：学校図書館メディアの選択と管理、提供

第１０回：学校図書館メディアの種類とその特性・複製（著作権）

第１１回：学校図書館の施設・設備

第１２回：図書館の相互協力とネットワーク

第１３回：学校図書館活動―社会課題と学校図書館⑴

第１４回：学校図書館活動―社会課題と学校図書館⑵

第１５回：2050年の学校図書館を考える

テキスト

テキスト『学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ－1）樹村房
参考書・参考資料等 その他、適宜印刷物を配布するので、A4ファイルを準備しておくこと。
学生に対する評価 事前学習として、テキストの該当ページを熟読してくる。これに約2時間を充てることを課す。また、事後学習として、毎時間の講義を記録によって振り返り、ポートフォリオにまとめる。これに約2時間を充てることを課す。授業および事前学習への取り組み状況、毎時間の振り返りシート（事後学習）、課題に対するレポート等によって総合的に判断する。

授業科目名： 学校図書館メディアの構成	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 平川恵実子 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

　学校図書館は児童生徒や教員のために多様なメディアを準備し、維持管理しなければならない。この授業では学校図書館の位置づけを理解し、学校図書館に必要なメディアの収集、提供、維持管理のための能力を養うことを目的とする。

　学校図書館メディアについての基礎知識を修得すること、学校図書館の役割と課題を理解し、利用しやすい学校図書館について考えられるようになることを到達目標とする。

授業の概要

○大学の図書館などで図書館メディアを見て、それらの種類や配架法を知る。

○学校図書館の位置づけを理解し、利用者しやすい学校図書館とは何かを考える。

○自分の好きな本について、その魅力をわかりやすく表現できるようになる。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：学校図書館メディアの教育的意義と人間の理解

第３回：学校図書館の機能・役割

第４回：学校図書館の機能・役割

第５回：学校図書館の機能・役割

第６回：学校図書館メディアの選択と収集方針

第７回：学校図書館メディアの除籍と廃棄

第８回：学校図書館メディアの組織化の意義と展開・配架

第９回：学校図書館メディアの組織化の実際

第１０回：学校図書館メディアの目録法（1）

第１１回：学校図書館メディアの目録法（2）

第１２回：学校図書館メディアの分類法（1）

第１３回：学校図書館メディアの分類法（2）

第１４回：校図書館メディアの件名目録法

第１５回：特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディア

定期試験はレポートで行う

テキスト

『探究 学校図書館学 第2巻 学校図書館メディアの構成』「探究 学校図書館学」編集委員会、

2020年初版発行
参考書・参考資料等 ・『日本十進分類法』もりきよし編、日本図書館協会、1995年 ・『基本件名標目表』日本図書館協会件名標目委員会編、日本図書館協会、1999年 ・『日本目録規則』日本図書館協会目録委員会編、日本図書館協会、1994年 ・『学校図書館』全国学校図書館協議会機関誌 ・全国学校図書館協議会（SLA）HP　http://www.j-sla.or.jp/
学生に対する評価 レポート試験７割、課題への取り組みや授業態度３割。

授業科目名： 学習指導と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 森　慶子 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

学校図書館及び学校図書館メディアを活用できる知識や技術を習得し、児童・生徒に情報・メディアリテラシーの育成指導ができることを目的とする。学習指導要領及び、学校教育・学校図書館に関する施策について述べる。知識基盤社会を生きるための言語能力育成が重視されている現状を鑑みて、学校図書館及び学校図書館メディアを活用した「探求的な学習」の学習指導過程を通して、情報・メディアリテラシーを育成するための工夫と実践例を提示する。また実際に児童・生徒の読書の発達過程を踏まえた絵本の読み聞かせ・読みあい活動・本の紹介活動・探求学習を行い、年間計画案を作成し、実践上の課題について考えさせる。

授業の概要

・図書館メディアを使って「探求的な学習」を体験する。（個人）
・絵本の読み聞かせ・読みあい活動の体験（グループ）
・学校図書館教育年間指導計画の作成（個人）
・パスファインダーの作成（個人）

授業計画

第１回：オリエンテーション・学校図書館教育の現状と課題
第２回：高度情報化社会におけるメディアリテラシーと学習指導
第３回：学校図書館活動（絵本の読み聞かせ・読みあい活動）
第４回：情報・メディアリテラシーと指導方法
第５回：情報・メディアリテラシーと探究的な学習１・問題設定
第６回：情報・メディアリテラシーと探究的な学習２・情報探索・収集
第７回：情報・メディアリテラシーと探究的な学習３・情報活用
第８回：情報・メディアリテラシーと探求的な学習４・記録、発表、自己評価
第９回：小学校各教科における学校図書館の活用
第１０回：中学・高等学校における学校図書館の活用
第１１回：発達を支える読書―特別支援教育を中心に―
第１２回：教職員のための学校図書館活用へのアプローチ
第１３回：レファレンスサービス・パスファインダー
第１４回：学校図書館教育の年間計画と評価
第１５回：学校図書館メディア活用能力演習

テキスト 『学習指導と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ‥３）樹村房 各授業時に必要に応じて資料の提示、配布を行う。
参考書・参考資料等 『改訂新版　学習指導と学校図書館』放送大学教育振興会 最新の情報は、適時コピーを配布する。
学生に対する評価 最終レポート（テスト）、授業内での話し合い等の態度やミニレポートを含めた授業への取り組み姿勢等にて総合的に判断する。

授業科目名： 読書と豊かな人間性	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 余郷　裕次 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

１．21世紀のグローバル社会を主体的に生き抜く人間性を育成するために、読書の意義とその機能を理解することを到達目標とする。

２．読書や様々なメディアから得た情報の交換が、児童・生徒の発達を促し、大人にとっても豊かな人間性の開発にいかに大きな力を持っているかを、主に本や絵本を通して体験をふり返ることを通じて考える。

３．本や絵本を読み合うことの社会的役割について考え、「読書体験交流」を通じてお互いの体験を共有し、啓発し合う意義をつかむ。

授業の概要

１．自分自身の読書体験を幼少期から現在まで振り返り、「読書個体史」としてまとめる。

２．「読書個体史」をもとに、自身の読書体験をプレゼンテーションする。

３．読書体験交流会を通して、今後の読書生活を設計する。

授業計画

第１回：読書と人間形成　－乳幼児の言語発達

第２回：読書と人間形成　－絵本と言語発達

第３回：読書と人間形成　－読書と人間形成

第４回：児童・生徒の読書興味・読書力の発達　－読書個体史からのアプローチ

第５回：児童・生徒の読書興味・読書力の発達　－国語科に読むことの発達研究

第６回：児童・生徒の読書興味・読書力の発達　－「読むこと」の能力と技術の体系

第７回：児童・生徒の読書興味・読書力の発達　－これからの「読むこと」の課題（黙読と音読）

第８回：読書体験交流会（演習形式）　－「私と読書」

第９回：読書体験交流会（演習形式）　－「私と読書」

第10回：読書体験交流会（演習形式）　－「私と読書」

第11回：読書体験交流会（演習形式）　－「私と読書」

第12回：読書体験交流会（演習形式）　－「読書体験交流発表会」

第13回：読書体験交流会（演習形式）　－「読書体験交流発表会」

第14回：読書体験交流会（演習形式）　－「読書体験交流発表会」

第15回：読書体験交流会（演習形式）　－「読書体験交流発表会」

定期試験

テキスト

『絵本のひみつ―絵本の知と読み聞かせの心――』余郷裕次　徳島新聞社他

参考書・参考資料等

１．『読み聞かせーこの素晴らしい世界』ジム・トレリース　高文研

２．『読書療法から読みあいへ』村中李衣　教育出版

３．『読書指導』亀村五郎　百合出版

４．『本を読む本』アドラー　講談社学術文庫

５．内田義彦「読書と社会科学」岩波新書

学生に対する評価

受講態度（２０％）、演習発表（４０％）、定期試験（４０％）。

授業科目名： 情報メディアの活用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 金西計英 担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

現代社会では、各種メディアの発展により、社会教育において積極的に新しいメディアを活用することが期待されています。図書館や博物館でも、新しいメディアの活用が求められます。そのため、情報メディアの特性について理解し、メディアを適切に活用できる人材の養成が急務となっています。本授業では学校現場等での情報化を積極的に図り、新しいメディアを効果的に活用できるようになることを目指します。まず、各メディアの特性・特色を理解し、説明できるようになり、そうしたメディアの活用方法について検討し、実際の企画、実施が可能になるようつなげる。

授業の概要

○最近の情報技術について基本的な理解を進め、自らの言葉で説明します。
○美術館等での新しいメディアの活用事例や問題点について説明し、議論します。
○メディアのデジタル化のもたらす効果や必要性、および問題点についてまとめます。

授業計画

第１回： オリエンテーション
第２回： 情報メディアと現代社会
第３回： インターネットの概要
第４回： デジタルアーカイブの諸相（1）
第５回： デジタルアーカイブの諸相（2）
第６回： インターネットを使った情報発信
第７回： インターネットの未来と課題
第８回： 情報メディアと学び（1）
第９回： 情報メディアと学び（2）
第10回： 情報メディアを使った学習支援
第11回： インターネットのセキュリティ
第12回： 情報リテラシーと倫理
第13回： 情報メディアと著作権（1）
第14回： 情報メディアと著作権（2）
第15回： 学習のまとめと総括
定期試験

テキスト 特になし
参考書・参考資料等 山本　順一, 気谷　陽子,「情報メディアの活用〔三訂版〕」, 放送大学教育振興会, 2016. その他, 参考にする文献については講義の中で適宜紹介します。
学生に対する評価 授業中に課す小レポート等の課題と、期末のテストの成績を総合的に評価します（授業での課題と期末の試験を、半々の割合で評価する予定です）。

授業科目名： 地域ワークショップデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉川 暢子、古草 敦史、 尹　智博、佐原　理、 栗原　慶、小川　勝、 内藤　隆、山田　芳明 担当形態： 複数

科　目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業の到達目標及びテーマ

本授業では Arts-Based-Research（ABR=美術による探求）を用いて地域に遍在する価値を発見し、子どもの視点を生かしながら地域の価値を共創していくデザイン手法を学び、美術教育が地域とどのように貢献可能なのか実践知を獲得することを目的とする。

授業の概要

我が国の美術教育の中心的価値である創造性や感性に根ざした教育をどのような観点から深められるのか、本授業では教育現場フィールドに出向き実際の地域に遍在する教育資源を活用する方法論について学ぶ。そこで、ABR によって地域の場所性や可能性を子どもの目線から探求し、芸術による気づきを基に、デザイン思考などの発想の方法論を援用しながら、地域デザインの手法を探求する。本実践を通じて、学校が四国各地の地域拠点として美術教育を通してどのようにそれぞれの地域と共存し創造的に持続可能な発展が可能なのか具体的な知見を得る。

授業計画

第１回：イントロダクション：「地域ワークショップデザイン」とは？
第２回：学びのフィールドについて知ろう１　ABR の方法論
第３回：学びのフィールドについて知ろう２　歩いてまわる(FW)
第４回：学びのフィールドについて知ろう３　地域資源の探究(FW)
第５回：学びのフィールドについて知ろう４　地域資源の発見方法(FW)
第６回：地域を創造的に捉えるフィードバック１　各教員からのテーマ
第７回：地域を創造的に捉えるフィードバック２　美術教育の視点から考える
第８回：地域を創造的に捉えるフィードバック３　子どもの発想を整理する
第９回：地域を創造的に捉えるフィードバック４　デザイン思考による落とし込み
第１０回：美術教育によって地域をデザインする１　子どもの視点を整理する
第１１回：美術教育によって地域をデザインする２　ワークショップを設計する
第１２回：美術教育によって地域をデザインする３　プロトタイピング
第１３回：美術教育によって地域をデザインする４　実践してみる
第１４回：美術教育によって地域をデザインする５　フィードバックを得る
第１５回：まとめ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

小松佳代子『美術教育の可能性』勁草書房，2018
笠原広一，リタ・L・アーウィン『アートグラフィー ―芸術家/研究者/教育者として生きる探求の技法―』BookWay,2020

学生に対する評価
　出席態度及び発言貢献度（30%），学習成果物（30%），レポート（40%）

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための (中)必修科目／(高)選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 池田誠喜、岡田康孝 担当形態：オムニバス

科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目（※中免） 大学が独自に設定する科目（※高免）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法

授業のテーマ及び到達目標

道徳の意義や原理等を踏まえ，学校における道徳教育の目標や内容を理解し，道徳教育における指導計画や指導方法を理解する。

（到達目標）

①道徳の本質を説明できる。

②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解する。

③道徳性の発達について理解する。

④学習指導要領の内容（道徳教育及び道徳科の目標及び内容）を理解する。

⑤道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導を理解する。

⑥道徳科の多様な指導方法を理解し，教材の特徴を踏まえて，授業設計に活用することができようになる。

⑦授業のねらいや指導過程を明確にして，道徳科の学習指導案を作成することができるようになる。

⑧道徳科の学習評価を理解する。

⑨模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付ける。

授業の概要

本授業では，視聴覚資料・文献資料・体験授業を通して学校現場での道徳教育の実際を知り，その上で道徳教育を支える理論・方法について学習した後，道徳科の学習指導計画を作成し，模擬授業を行うことにより，道徳科にかかわる授業実践力の基礎的な力を養うことを試みる。これらの活動を通して，学校教育における道徳教育指導の理解を深めることにより，将来，初等・中等教育学校に関わる者として，道徳教育に取り組む意欲を高める。

授業計画

第１回：**オリエンテーション　授業の進め方　道徳教育と学習指導要領の理解Ⅰ**

道徳教育とは何か　道徳教育の歴史，学習指導要領の理解，学習指導要領の変遷，道徳の目標・内容の理解（担当：池田誠喜）

第２回：**道徳教育と学習指導要領の理解　Ⅱ**

道徳指導計画，教育活動全体を通じて行う指導，家庭や地域との連携，PDCAサイクルによる道徳教育におけるカリキュラムマネジメント（担当：岡田康孝）

第3回 : **学校における道徳教育の実際Ⅰ**

VTRによる小学校・中学校での道徳の授業の視聴　感想の発表　質疑　ディスカッション，読み物教材に触れる　読み物教材と価値項目視聴覚教材に触れる　視聴覚教材の道徳の時間への活用（担当：岡田康孝）

第4回 : **学校における道徳教育の実際Ⅱ**

道徳科の授業の基本　道徳科の目標　指導方法

インカルケーションの道徳，品性教育，価値明確化　モラルジレンマ，日本の道徳の時間の授業方法，自我関与，問題解決的，体験的な道徳授業について（担当：岡田康孝）

第5回 : **学校における道徳教育の実際Ⅲ**

指導案の理解　板書の理解と工夫　板書計画　道徳科の評価（担当：岡田康孝）

第6回 : **道徳教育を支える理論**

道徳的判断，道徳的感情，道徳的行動，道徳性の発達，道徳性心理学，道徳脳（担当：池田誠喜）

第7回 : **「道徳科」授業体験Ⅰ**

小学校教師による「道徳の時間」の授業体験　（担当：岡田康孝）

第8回 : **「道徳科」授業体験Ⅱ**

中学校教師による「道徳の時間」の授業体験　（担当：池田誠喜）

第9回 : **「道徳科」授業体験Ⅲ**

多様な指導方法による「道徳の時間」の授業体験　（担当：岡田康孝）

第１０回 : **現代的課題諸課題と道徳教育**

いじめ・情報モラルなど現代的な課題と道徳教育とのかかわり　（担当：池田誠喜）

第１１回 : **指導案作成Ⅰ　自我関与型の授業指導案作成　小学校低学年用**（担当：池田誠喜）

第１２回 : **指導案作成Ⅱ　問題解決型の授業指導案作成　小学校中学年・高学年用**（担当：池田誠喜）

第１３回 : **指導案作成Ⅲ　中学生用授業指導案作成**（担当：池田誠喜）

第１４回 : **模擬授業Ⅰ**

グループごとで作成した指導計画による模擬授業と検討（グループ別）（担当：池田誠喜）

第１５回 : **模擬授業Ⅱ**

グループごとで作成した指導計画による模擬授業と検討（全体発表）（担当：池田誠喜）

テキスト

小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編（最新版）

中学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編（最新版）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（最新版）

中学校学習指導要領（最新版）

学生に対する評価 毎回授業時に行う小テストもしくは授業内レポート（70%），指導案（15%），模擬授業（15%）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：麻生多聞 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		

授業のテーマ及び到達目標

憲法学における最も基礎的な領域を講義する。憲法原理論、憲法史、平和主義・戦争放棄、主権論、人権論、統治機構論を概観する。

到達目標は下記の通りである。

1. 立憲主義という思想が国家権力拘束規範たる憲法典にいかに結実しているかを説明できる。
2. 現行憲法と戦前の憲法がどのような対照性をもつか、立憲主義の観点から説明できる。
3. 憲法が前提とする個人主義が利己主義やミーイズムとは無縁の公共的人権調整メカニズムに依拠するものであることを説明できる。

授業の概要

・憲法学の各テーマについて、学説・判例を参照し、どのような論理的思考法が存在するかにつき把握する。

・価値判断が不可避的に伴う憲法解釈論のあり方について、多数説・少数説の多様なあり方を俯瞰し、自分自身がどのような立場を選択すべきかについて考察を促す。

授業計画

第１回：憲法とは何か・立憲主義について・憲法規範の特質
第２回：憲法９条の規範的意義
第３回：比較法的な観点からみた憲法制定過程・戦後ドイツの再出発とベルリンの壁崩壊
第４回：法の下の平等
第５回：雇用における性差別
第６回：家庭における女性抑圧
第７回：男性差別
第８回：憲法上のマイノリティの人権享有主体論：性的マイノリティについて
第９回：生死と自己決定
第１０回：プライバシー権
第１１回：生存権
第１２回：人間らしく働く権利
第１３回：立法と行政
第１４回：司法権
第１５回：憲法保障
定期試験

テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 法条文や各種資料については、適宜印刷プリントの形で配布する。
学生に対する評価 成績判定は学期末の成績判定試験により行う。

授業科目名： 健康・スポーツ科学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：藤田雅文，松井敦典，南隆尚，綿引勝美，田中弘之，宮本賢作，小島理永 担当形態： 複数・オムニバス

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育

授業のテーマ及び到達目標

小学校における体育科の授業や特別活動の指導において必要とされる運動技能（本学グレードテスト3級）を培い、各種の運動の技術ポイントと指導法の理解を深める。また、受講生の心身の健康を増進するとともに、健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深める。

授業の概要

陸　上：自分の身体に応じた技能評価法を理解し、パフォーマンスを高める。
器　械：グループで相互に観察、評価、助言、補助しながら器械運動の各種の技を修得する。
水　泳：水泳系の内容に含まれる基本的な技能の学習方法を理解し、それらの技能を身につける。
ボール：教員採用に向けて、ボール操作能力をグレード2級にまで高められる練習をする。
表　現：各種のフォークダンスと表現遊びの指導法を理解し、パフォーマンスを高める。
健　康：健康対策のしくみ、疾病等の各論について学習し、保健学習の基盤となる知識を修得する。

授業計画

実技は、陸上運動、水泳、器械運動、ボール運動、表現運動の５領域をローテーションしながら履修する。

講義は、ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深める。

第１回：オリエンテーション（担当：全員）
第２回：器械運動・ボール運動・表現運動（担当：藤田、綿引、小島）
第３回：器械運動・ボール運動・表現運動（担当：藤田、綿引、小島）
第４回：器械運動・ボール運動・表現運動（担当：藤田、綿引、小島）
第５回：器械運動・ボール運動・表現運動（担当：藤田、綿引、小島）
第６回：器械運動・ボール運動・表現運動（担当：藤田、綿引、小島）
第７回：器械運動・ボール運動・表現運動（担当：藤田、綿引、小島）
第８回：器械運動・ボール運動・表現運動（担当：藤田、綿引、小島）

第9回：水泳（担当：松井、南）
第１０回：水泳（担当：松井、南）
第１１回：水泳（担当：松井、南）
第１２回：水泳（担当：松井、南）
第１３回：水泳（担当：松井、南）
第１４回：水泳（担当：松井、南）
第１５回：水泳（担当：松井、南）
第１６回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第１７回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第１８回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第１９回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２０回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２１回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２２回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２３回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２４回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２５回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２６回：陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）（担当：藤田、綿引）
第２７回：健康科学の講義（宮本）
第２８回：健康科学の講義（宮本）
第２９回：健康科学の講義（宮本）
第３０回：健康科学の講義（宮本）

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価
実技は、教職キャリア支援センター実技能力支援分野のグレードテストによって評価する。
実技と講義の評価基準は４：１とする。

授業科目名： 健康・スポーツ科学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：南隆尚，綿引勝美，松井敦典，田中弘之，西本浩章 担当形態：複数

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育

授業のテーマ及び到達目標

現代社会におけるスポーツの果たす役割は、これから社会に生きる者にとってますます重要となっている。本授業では実技として、生涯スポーツ種目や動きづくりを取り入れたトレーニングなどを柔軟な授業形態で行う。また、その中で教養としての体育・スポーツおよび身体に関する基礎・応用の知識について講義する。生涯にわたった身体教育やその素養、健康な生活を送るための実践法と知識の習得を到達目標とする。

授業の概要

〇選択種目に取り組み、生涯スポーツを楽しむ技術・素養を修得する。

〇自らの生活を振り返り、健康的に過ごす生活態度の習慣化を目指す。

〇体育・スポーツに関する幅広い見識と精神性を学修し、教養体育の意味を考える教養を修得する。

〇社会人・教員としての使命感・倫理観・協働力を修得した態度を示す。

授業計画

健康・スポーツ学IIにおいては、スポーツ実技と講義を行う。実技担当者が講義を含む形式で授業を行う。実技は履修生の希望に応じて選択し、決定する。

【実技】

・２種目を前・後期に分けて下記から選択する。選択種目は下記のとおり。

・必ず前期・後期において、それぞれ１種目ずつを選択すること。

・授業初回に種目分けオリエンテーションを実施する。各選択種目における授業計画の概要は、その際に提示する。

希望者が各開設種目の定員を超えた場合、選択条件や抽選により選択者を決定する。

種目： ラケットスポーツ・ボールゲーム・トレーニング・動き作り・剣道・アウトドアスポーツ・レクリエーションスポーツなど

【講義】

・それぞれ選択した種目において、体育理論・教養体育の内容の講義を実施する。

第１回：オリエンテーション

第２回：スポーツ実技

第３回：スポーツ実技

第４回：スポーツ実技
第５回：スポーツ実技
第６回：スポーツ実技
第７回：スポーツ実技
第８回：スポーツ実技
第９回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第１０回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第１１回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第１２回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第１３回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第１４回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第１５回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第１６回：オリエンテーション
第１７回：スポーツ実技
第１８回：スポーツ実技
第１９回：スポーツ実技
第２０回：スポーツ実技
第２１回：スポーツ実技
第２２回：スポーツ実技
第２３回：スポーツ実技
第２４回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第２５回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第２６回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第２７回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第２８回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第２９回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義
第３０回：選択した種目においての体育理論・教養体育の内容の講義

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価
授業への取り組み態度により総合的に判断して評価する。

授業科目名： 英語コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：鎌田スザーン・リン，アーレン　ニムチャック，ノトリー･M･マドックス，ジョナサン･D･フロレス，ジェラード・マーシェソ 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、高校で学んだ基本的な言語スキルの開発をさらに進め、学習者の自律性スキルを理解して、大学レベルでの自主的な学習を促進します。

授業の概要

本授業はすべて英語で行われます。 個別・ペア・グループで、話したり、聞いたり、読んだり、書いたりすることが求められます。英会話を練習し、毎週のレッスンに必要な英語を練習します。 また、発音の練習、新しい語彙の習得、流暢さの向上に努めます。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：故郷について英語で学ぶ
第３回：故郷について英語で学ぶ
第４回：グループプレゼンテーション準備
第５回：グループプレゼンテーション準備
第６回：グループプレゼンテーション
第７回：グループプレゼンテーション
第８回：方向性を示す
第９回：質問と回答
第１０回：グループ指導プレゼンテーション準備
第１１回：グループ指導プレゼンテーション
第１２回：グループ指導プレゼンテーション
第１３回：クリエイティブ・ライティング
第１４回：個別のプレゼンテーション
第１５回：個別のプレゼンテーション・スピーキングテスト

テキスト

教科書は使用しません。適宜，資料を配付します。

参考書・参考資料等 適宜，資料を配布します。
学生に対する評価 プレゼンテーション（25%），スピーキングテスト（25%），グループプレゼンテーション（25%），授業への参加態度（25%）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：鎌田スザーン・リン，アーレン　ニムチャック，ノトリー･M･マドックス，ジョナサン･D･フロレス，ジェラード・マーシェソ 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

本授業は、学生が英会話の流暢さと理解を構築するために集中的に学習するクラスです。この授業に参加して、話すことと聞くことを通して英語を上達させましょう。

生徒は次のことに自信と能力を身につけること

1）自然な英語の理解 2）発音 3）スピードと流暢さ 4）自然な英会話。

授業の概要

本授業はすべて英語で行われます。毎週英会話を練習し、毎週のレッスンに必要な英語を練習します。また、発音の練習、新しい語彙の習得、流暢さの向上に努めます。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：シーズンについて学ぶ
第３回：映画について学ぶ
第４回：シーズンについて学ぶ　その２
第５回：ファーストフードについて学ぶ
第６回：シーズンについて学ぶ　その３
第７回：過去形について学ぶ
第８回：シーズンについて学ぶ　その４
第９回：アメリカについて学ぶ
第１０回：インタビューについて学ぶ
第１１回：グループワーク　その１
第１２回：グループワーク　その２
第１３回：グループワーク　その３
第１４回：グループワーク　その４
第１５回：まとめ

テキスト

教科書は使用しません。適宜，資料を配付します。
参考書・参考資料等 適宜，資料を配布します。
学生に対する評価 課題（80%）、グループワーク（20%）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅢ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：鎌田スザーン・リン，アーレン　ニムチャック，ノトリー･M･マドックス，ジョナサン･D･フロレス，ジェラード・マーシェソ 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、学生は英語でのオーラルコミュニケーションのレベルを上げることができます。本授業の目標は、言語を教えるさまざまな方法を体験し、アクティブラーニング技術を通じて自分の英語レベルを高め、クラスの他の学生に積極的に教えることによって彼らの教育スキルを練習する。

授業の概要

本授業はすべて英語で行われます。 リスニングとスピーキングのつながりを構築し、生徒が流暢にコミュニケーションできるようにします。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：招待する
第３回：時間について説明する
第４回：グループワーク
第５回：他の国について調べる
第６回：グループワーク　その２
第７回：ショッピング
第８回：徳島について話す
第９回：日本について話す
第１０回：大学生活について話す
第１１回：家族について話す
第１２回：グループワーク　その３
第１３回：グループワーク　その４
第１４回：グループワーク　その５
第１５回：まとめ・スピーキングテスト

テキスト

教科書は使用しません。適宜，資料を配付します。
参考書・参考資料等 適宜，資料を配布します。
学生に対する評価 課題（50%）、スピーキングテスト（50%）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅣ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名：鎌田スザーン・リン，アーレン　ニムチャック，ノトリー･M･マドックス，ジョナサン･D･フロレス，ジェラード・マーシェソ 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、これまで学んだことを活用することを目的としています。実用的なコミュニケーションを学びます。

授業の概要

本授業はすべて英語で行われます。 日本での日常生活や教育に関する問題について話し合います。

授業計画

第１回：はじめに／自己紹介
第２回：目標について話し合う
第３回：ワークショップ：発音
第４回：未来形の正しい使用法
第５回；ワークショップ：未来形
第６回：ワークショップ：未来形　その２
第７回：プレゼンテーションの準備
第８回：プレゼンテーションの準備　その２・中間テスト
第９回：ワークショップ：リスニング
第１０回：政治的見解を議論する
第１１回：プレゼンテーションの準備
第１２回：プレゼンテーションの準備
第１３回：プレゼンテーション
第１４回：プレゼンテーション
第１５回：まとめ・スピーキングテスト

テキスト

教科書は使用しません。適宜，資料を配付します。

参考書・参考資料等

適宜，資料を配布します。
学生に対する評価 プレゼンテーション（25%）、スピーキングテスト（30%）、授業の取り組み態度（20%）、課題（25%）

授業科目名： 英語コミュニケーションV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：鎌田スザーン・リン，アーレン　ニムチャック，ノトリー･M･マドックス，ジョナサン･D･フロレス，ジェラード・マーシェソ 担当形態： クラス分け・複数

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

社会の国際化が要請する新しい教育課題や教育現場そのものの国際化を視野に入れ、これから教員になろうとしている本学学生を対象に、国際語としての英語でのコミュニケーション能力の伸張をはかるとともに、異文化を直接体験することによって教育現場において異文化理解教育や国際理解教育を推進していくための力量を高めることを目指します。なお、本授業は海外で実施します。

授業の概要

①英語授業担当教師及びホストファミリーと積極的にコミュニケーションを図る。

②現地での研修で学んだことを報告書の形にまとめる。

授業計画

１．実施時期

３月の２週間

２．実施場所（変更になる可能性もある）

オーストラリアのアデレード（Adelaide）市。

研修機関は、アデレード大学英語センター。

３．研修内容

午前：英語集中訓練

午後：フィールドワーク

宿泊：ホームステイ

４．参加費用

実費負担（航空運賃、授業料、ホームステイ料金、食費を含む）。

５．募集定員

15 名程度。どの専修・専攻の学生でも，また学部生だけでなく、大学院生も参加可能。

６．募集方法と募集時期

後期になってから学内の掲示板等によって募集を開始します。

７．その他 出発前に事前指導を実施します。なお、単位の取得を希望しない場合も参加できます。 本学教員がひとり付き添いとして同行します。
テキスト 事前指導の場で指定します。
参考書・参考資料等 特になし。
学生に対する評価 授業担当者が、事前指導への取り組み状況、研修先での成績、帰国後提出された課題等を総合的に判断して評価します。

授業科目名： 基礎情報教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：曽根直人,大野将樹,宮口智成,阪東哲也 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標

鳴門教育大学の情報環境の理解，情報理解ならびに情報教育の理論的背景の理解，教員として必要な情報教育の基礎的知識の習得，学校教育への応用を目的とした情報リテラシ能力の向上を目指している。プロジェクトを展開し，情報機器の利用ばかりでなく，情報活用能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

授業の概要

・情報リテラシの向上
・プレゼンテーションの作成
・プロジェクト研究による課題解決への取り組み

授業計画

第１回：情報環境利用実習１（オンライン授業で利用するアプリのインストール），情報リテラシー（情報収集，問題解決，情報活用，メディア）
第２回：情報環境利用実習２（To-Do,OneDrive, Lensの活用），情報セキュリティ（最新動向，事例分析，対策，サイバーボランティア活動の紹介）
第３回：情報セキュリティ実習（ファイルのパスワード設定），学校とICT（教育の情報化，情報教育，情報環境設計）
第４回：校務情報化実習１（excelで成績処理），レポート作成入門（引用，著作権，論理的思考(演繹，帰納)）
第５回：校務情報化実習２（wordレポート作成，テンプレートの利用），思考と表現（論文・研究発表の作法，プレゼンテーション）
第６回：校務情報化実習３（パワーポイントデザイン），データサイエンス入門１（仮説駆動とデータ駆動）
第７回：データサイエンス実習１（Google Ngram, 問を立てよう），データサイエンス入門２（データサイエンスとは）
第８回：データサイエンス実習２（excelでデータを可視化），データサイエンス入門３（統計学の基礎）
第９回：データサイエンス実習３（分類問題: あやめのデータセット），データサイエンス入門４（データの可視化）
第１０回：データサイエンス実習４（データ分析: 教育用標準データセットなど），プログラミング

的思考（論理的思考，アルゴリズム） 第１１回：プログラミング１（プログラミング演習(Scratch)），子どもたちの情報環境（教育の情報化，情報環境設計） 第１２回：プログラミング２（Scratchで物語），プロジェクト１（プロジェクトの進め方，基本的研究手法，問題設定，問題解決） 第１３回：プロジェクト１（協働学習で調べるテーマを決めて，役割分担を），情報教育理論（情報と教育・人間形成，情報と社会，情報の科学，知識基盤社会） 第１４回：プロジェクト２（調査，検討），情報環境の活用（最新動向，協調環境，インタラクション，電子教科書） 第１５回：プロジェクト３（(調べた内容について，まとめてポスターを作成する），プロジェクト４（発表会） ポスター 定期試験
テキスト 基礎と実践から学べる小・中学校プログラミング教育（ジアース教育新社，ISBN978-4-86371-571-4）講義の中で適宜紹介し，最新の内容は電子ファイルで紹介する。
参考書・参考資料等 適宜資料配付
学生に対する評価 授業への取り組み状況，小レポート，プロジェクト研究の成績を総合的に判断し，到達度評価を行う。

授業科目名： 実践情報教育Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：大野将樹 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標

本講義は、コンピュータを用いた文書作成および表計算の技術を習得し、教員に必要な情報処理能力を向上させることを目的とする。

【到達目標】

（1）図表を活用した表現力の高いコンテンツを作成できる

（2）定型的な処理を自動化できる

（3）コンテンツを効率的に管理できる。

授業の概要

文書作成ソフトおよび表計算ソフトの機能を理解し、テーマに沿ったコンテンツを作成する。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：文書作成１（基本操作）

第3回：文書作成２（テーマ、スタイル、レイアウト）

第4回：文書作成３（検索、置換、箇条書き、段落番号）

第5回：文書作成４（図、表、脚注、引用）

第6回：文書作成５（コンテンツコントロール、差し込み文書）

第7回：文書作成６（変更履歴、コメント）

第8回：文書作成７（マクロ）

第9回：表計算１（基本操作）

第１０回：表計算２（テーマ、スタイル、レイアウト）

第１１回：表計算３（オートフィル、条件付き書式、データの入力規則）

第１２回：表計算４（統計に関する関数）

第１３回：表計算５（検索に関する関数、条件に関する関数）

第１４回：表計算６（テーブル、グラフ、マクロ）

第１５回：総括

定期試験

テキスト

授業開始前に配布する。

参考書・参考資料等

授業開始前に配布する。

学生に対する評価

毎回の授業で出題される課題の回答内容により評価する。

授業科目名： 実践情報教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：曽根直人，阪東哲也 担当形態：複数
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標

パソコンではさまざまなメディアの加工，作成が容易に行える。本授業では，これらの能力を活用し，マルチメディアコンテンツを作成する。コンテンツの作成を通じて情報処理教育の実践を行う。

【到達目標】

1.パソコンを利用した効率の良い文書作成

2.簡単なウェブページ作成

3.簡単な画像の加工

4.プログラミング入門

5.情報セキュリティの基礎

6.ビデオ編集の技術

を習得する。

授業の概要

・スタイルを活用した効率的な文書作成

・HTML を理解し，ウェブページを作成する

・簡易な画像処理ソフトを利用し，画像の加工を行なう

・プログラミング入門

・パソコンを利用したビデオ編集を行なう

・情報セキュリティ対策の実施

授業計画

第１回：イントロダクション，PCの基本操作(ファイル構造)

第２回：ワードプロセッサの活用1(スタイルを利用した文書作成)

第３回：ワードプロセッサの活用2(スタイルを利用した文書作成2)

第４回：Webページ作成1(HTMLの基礎)

第５回：Webページ作成2(LINK)

第６回：Webページ作成3(CSS)

第７回：デジタル画像編集加工1(ペイントソフトの利用)

第８回：デジタル画像編集加工2（レイヤーの活用l)

第９回：プログラミング入門1(Scratch体験)

第１０回：プログラミング入門2(簡単なプログラミング作成) 第１１回：情報セキュリティについて 第１２回：ビデオ編集1(編集ソフトの基礎) 第１３回：ビデオ作成1(ストーリーの作成，取材，撮影，絵コンテ作り) 第１４回：ビデオ作成2(ビデオ編集) 第１５回：ビデオ作成3(ビデオ上映) 定期試験
テキスト 必要な文献や資料を適宜配布，紹介する。
参考書・参考資料等 必要な文献や資料を適宜配布，紹介する。
学生に対する評価 実習時の作業状況，成果物およびレポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 実践情報教育Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：鈴木直美 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標

ICTの発展と多様な利用者環境の普及により，マルチメディア教材作成に利用可能な素材作成技術も多様化している。本講義では，マルチメディア教材作成に活用可能な素材作成スキルの習得を目標とする。作成した素材を元に，インタラクティブな教材作成のためのスキルを養う。また，これらを通じて，教材作成におけるICT利活用のための実践力を養う。

【到達目標】

1.インタラクティブ教材作成に必要な要素技術を理解し，説明できる。

2.教材作成に適用可能な静止画，動画の性質を理解し，作成できる。

3.素材を組み合わせ，簡単なインタラクティブ教材を作成できる。

授業の概要

・インタラクティブ教材に適した特性に基づき，適切な静止画素材を作成する。

・教材構成に必要な素材の扱いに習熟する。

・作成したインタラクティブ教材を相互評価し，改善点を指摘する。

授業計画

第１回：Windows環境とその操作：ドライブとフォルダ

第２回：Windows環境とその操作：ファイルと拡張子

第３回：画像形式の理解：解像度と画像ファイル形式

第４回：Photoshopによる画像編集：解像度，画像モードと色調補正

第５回：Photoshopによる画像編集：レイヤーの概念と取り扱い

第６回：Photoshopによる画像編集：フィルタの概念と効果

第７回：Photoshopによる画像編集：図形描画と文字入力

第８回：素材作成演習（1）

第９回：Photoshopによるアニメーション作成：レイヤーとフレーム

第１０回：Photoshopによるアニメーション作成　：Animation　GIFの作成

第１１回：素材作成演習（2）

第１２回：Webサイトにおけるリッチコンテンツの進化

第１３回：Animate CC によるアニメーション：作成の基本

第１４回：Animate CC によるアニメーション：レイヤーの活用

第１５回：総合演習：インタラクティブ教材作成

定期試験

テキスト 必要な資料は配布する。
参考書・参考資料等 参考文献は講義中に適宜紹介する。
学生に対する評価 実習時の作業状況，成果物およびレポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 人間形成原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 谷村千絵 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標

テーマ　人間形成とは何か。

到達目標　近代ならびに現代における人間形成の思想的基盤ならびに、重要な教育思想家の営為について理解する。

授業の概要

教職を目指す受講生を対象に、人間形成の基礎理論を講義する。より具体的に述べれば、人間形成と教育という概念のそれぞれの本質を理解し、近現代以前の学校がない社会から教育制度が整う近現代社会へと変わる中で教育思想・教育文化にどのような変遷があったのかを概観する。さらに、現代社会における人間形成の諸問題を、家族の多様化、格差、そして不確定性の観点から考察し、喫緊の教育課題の事例として、災害と人間形成についても学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：教育の概念　―人間形成と教育

第３回：カントの教育学

第４回：教育の本質　―自然と文化―

第５回：教育の原初形態　　―イニシエーション―

第６回：日本民衆の産育習俗　―民衆の教育の豊かさと限界―

第７回：人間形成空間の変容　―ルソー、ペスタロッチ、デューイ―

第８回：教育再生の思想　―イチイチ―

第９回：子ども・家庭・学校の誕生　―アリエス―

第１０回：変貌する家族　―子ども中心主義―

第１１回：教育と平等　―単線型と複線型―

第１２回：教育と階層差　―教育格差―

第１３回：不確定性時代の教育―災害と人間形成

第１４回：ゲストティーチャーの講演　阪神淡路大震災と人間形成

第１５回：ゲストティーチャーの講演　東日本大震災と人間形成

定期試験

テキスト

『教育原論の試み　人間形成の歴史と思想』小柳正司　あいり出版

参考書・参考資料等 授業内で配付および指示する。
学生に対する評価 定期試験100％

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阪根健二、湯地宏樹 担当形態：複数
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

本授業は，教育職員免許法施行規則で定められている「教職の意義及び教員の役割・職務内容」及び児童福祉法施行規則における「保育の本質・目的に関する科目」であり，今日の学校（園）における自らの教師（保育士）像を明確にして自己実現を図り，教職に対する情熱や使命感を高めることを目的としている。これを達成するため，教職の意義，教員の役割，職務内容，チーム学校への対応等についての知識や理解を深めることを具体的な目標とし，学校（園）現場における教師（保育士）の職務を考える場（機会）を通して，自らの教職適性を確認し，教職への動機付けや教職課程の履修計画策定を行う。

授業の概要

教職の意義，教師の役割，学習指導・生徒指導等，教師の職務，チーム学校への対応等を理解し，講義や実習等を通して，教師（保育士）として必要な事項について自らの考えを述べることができることを目指し，①授業では，教職の意義や使命についての講義，演習を行う。②授業の定着を図るため，毎回課題を設定する。③教育現場と連携した実習（土曜日授業参画）を行い，教師の役割や職務を理解させる。④土曜日授業での企画やワークショップ等の演習を通して，教師の専門性を各自が構築し，今後の教職への意欲の向上を図る。

授業計画

第１回：オリエンテーション，教職の意義①（公教育の目的，学校現場の実態）
第２回：教職の意義②（教職の使命と職務，教えることとは）
第３回：教職の意義③（今日的な教育課題を考える）
第４回：職務内容①（小中高特の教員が置かれている現状）
第５回：職務内容②（小中高特の教員の職務内容と服務）
第６回：職務内容③（生徒指導と児童理解，いじめ対応）
第７回：チーム学校への対応①（地域連携と土曜日授業，実習準備）
第８回：チーム学校への対応②（体験学習において，実習準備）
第９回：チーム学校への対応③（子ども理解と対応，実習準備）
第１０回：教員の役割①（幼稚園教諭・保育士の制度的位置づけ）
第１１回：教員の役割②（幼稚園教諭・保育士の資質と能力）
第１２回」職務内容④（幼稚園教諭・保育士の役割と倫理）
第１３回：職務内容⑤（幼稚園教諭・保育士の専門職的成長）

第１４回：教育を考える①（実習を振り返る，教育課題の解消にむけて） 第１５回：教育を考える②（進路選択に向け，教職の職業的特徴の理解，授業評価） 定期試験を実施する（あるいはレポート）
テキスト 指定しない。
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 『学習指導要領』，『幼稚園教育要領』（最新版），『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版），『保育所保育指針』（最新版），阪根健二著 『教師ほど素敵な仕事はない！ーいま届けたい子どもたちの伝言ー』 北大路書房（2009年），教職課程シリーズ 『教職概論』一藝社（2014年）
学生に対する評価 試験あるいはレポート（50％），演習課題（50％）

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 葛上秀文 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

現代の学校教育を社会の状況との関係で理解し、教育課題に対応するための教育政策の動向を理解する。

到達目標

教育に関する様々な現象を社会学的に考察する

臨床場面における教育課題をマクロ・ミクロの観点から考察する

授業の概要

教育社会学とは、様々な教育に関わる現象を、社会学的なアプローチで研究する学問である。本授業では受講者の身近な話題を取り上げながら、教育社会学の議論を展開する。前半では受講者にとって最も身近な『学校』を扱う。後半にかけては、マイノリティと教育に関する事例を扱う。本講を通じて、教育に関する様々な現象の社会的側面に関して自ら考察できる力を身につけることを目的とする。

授業計画

第１回：教育社会学のパースペクティブ

第２回：教育社会学の視点から見る（１）－授業－

第３回：教育社会学の視点から見る（２）－カリキュラム－

第４回：教育社会学の視点から見る（３）－校則－

第５回：教育社会学の視点から見る（４）－学校における事故－

第６回：教育社会学の視点から見る（５）－防災－

第７回：マイノリティと教育（１）－貧困－

第８回：マイノリティと教育（２）－外国人児童生徒－

第９回：マイノリティと教育（３）－差別問題－

第１０回：マイノリティと教育（４）－ジェンダー－

第１１回：マイノリティと教育（５）－LGBTQs－

第１２回：学校と地域の連携（１）－コミュニティスクール－

第１３回：学校と地域の連携（１）－キャリア教育－

第１４回：これからの学校について考える（１）－子供にとっての学校－

第１５回：これからの学校について考える（２）－全ての子供を取り残さない教育－

定期試験

テキスト 授業中に適時文献を紹介する
参考書・参考資料等 酒井朗, 中村高康, 多賀太, 2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房
学生に対する評価 成績は授業で課す小レポート(20%)と定期試験(80%)によって評価する。

授業科目名： 教育制度・経営論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 石村雅雄 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本講義は，将来教職に就こうとする者に対して，学校教育がいかなる制度や行政，及び組織・集団によって成立し，またそれらによってどのような影響を受けているかに関する基礎的事項の理解を図り，教育制度及び行政の仕組み及び学校組織・学級集団の構造の視点から，学校教育の課題の考察を深めることを目的とする。具体的には，教育制度の成立，教育行政の組織・運営，学級・学校の集団や組織の経営について，基礎的な事項の理解をはかる。

授業の概要

講義中に説明する「何でも帳」に講義ごとに記入し，教員から毎回書かれるコメントを参考にしながら，現代の教育制度，教育経営の諸問題に関し，自分の頭で考察し，見解を表明できるようになる。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：教育・理想と制度との関係　－欧米での展開について－
第３回：教育・理想と制度との関係　－日本での展開について－
第４回：近代学校の成立と現代における問題　－義務制について－
第５回：近代学校の成立と現代における問題　－教育の自由について－
第６回：近代学校の成立と現代における問題　－非宗教性，無償制について－
第７回：「学校」で何を，どのように教えるか　－教員の問題について－
第８回：「学校」で何を，どのように教えるか　－児童・生徒の問題について－
第９回：「学校」で専門的に教える者としての教員　－教科指導について－
第１０回：「学校」で専門的に教える者としての教員　－教科指導以外について－
第１１回：学校の組織と経営　－学校「経営」について（安全管理・危機管理を含む）－
第１２回：学校の組織と経営　－地域と学校の関係について－　学校運営協議会を中心に
第１３回：学校の組織と経営　－中央政府の問題について－
第１４回：生涯学習・家庭教育と制度としての「学校」
第１５回：新たな教育課題と学校システムの変革
定期試験

テキスト

高見茂監修『必携　教職六法（2023年度版）』協同出版、2022年。

参考書・参考資料等 文部科学省『諸外国の教育動向2020年度版』明石書店、2021年。
学生に対する評価 講義中に使用される「何でも帳」への参加，講義中の議論への貢献の度合い，自由レポート，以上を自己評価するものとしての筆記試験を総合して行います。

授業科目名： 教育心理学（発達心理を含む。）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 皆川直凡、田村隆宏、高原光恵、内田香奈子 担当形態：複数，オムニバス

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

幼児，児童及び生徒の心身の発達並びに学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，それぞれの発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。授業の過程で，学ぶ側から教える側への視点の転換をはかる。到達目標として，下記の３項目を設定する。

１．発達に関する代表的理論を踏まえ，幼児，児童及び生徒の心身の発達に関する諸概念と，乳児期から青年期までの言語発達・認知発達・社会性の発達についての具体的な内容を理解している。これらの理解を通して，教育における発達理解の意義を理解している。

２．様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し，主体的学習を支える動機づけや学び方の特徴について，発達の特徴と関連づけて理解している。

３．幼児，児童及び生徒の心身の発達過程を踏まえ，主体的な学習活動を支える指導や支援の基礎となる考え方と，集団づくりや学習評価の在り方を理解している。

授業の概要

乳児期から青年期までの心身の発達とその特徴に関する基礎知識を修得し，教育における発達理解の意義を理解する。幼児，児童及び生徒の学習の諸形態とその過程に関する基礎知識を修得し，発達を踏まえた学習支援と主体的な学習活動を支える指導についての基本的な考え方及び評価の方法を理解する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業のテーマ・到達目標，授業の進め方など）　（担当：全員）
第２回：乳幼児期における知覚・認知の発達　（担当：田村）
第３回：幼児期における思考の発達　（担当：田村）
第４回：性格，情緒・感情の発達　（担当：田村）
第５回：社会性の発達　（担当：田村）
第６回：児童・生徒の発達を支える心理的要因　（担当：内田）
第７回：子どもから大人になること：青年期の子どもたち　（担当：内田）
第８回：児童・生徒における心の健康教育　（担当：内田）
第９回：身体機能障障がいと発達　（担当：高原）
第１０回：定型発達と非定型発達：発達障がい　（担当：高原）

第１１回：様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎　（担当：皆川） 第１２回：児童・生徒の主体的・対話的な学習活動を支える動機づけの特徴　（担当：皆川） 第１３回：児童・生徒の主体的・対話的な学習活動を支える学び方の特徴　（担当：皆川） 第１４回：児童・生徒の発達を踏まえ主体的・対話的な学習活動を支える指導と支援　（担当：皆川） 第１５回：全体のまとめとふりかえり　（担当：全員） 定期試験
テキスト テキストは用いない。必要に応じて，参考書を授業中に指示する。
参考書・参考資料等 ・『自律的な学習意欲の心理学』（櫻井茂男 著，誠信書房 刊） ・『エビデンスベースの教育心理学』（榎本淳子・藤澤 文 編，ナカニシヤ出版 刊） 上記の書籍を参考書として用いるほか，必要に応じて授業中に指示する。
学生に対する評価 定期試験およびレポートの成績に授業への参加態度（課題達成度を含む）を加味し，総合的に評価する。

授業科目名： 発達の多様性に応える教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 小倉正義 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

授業のテーマ及び到達目標

【授業のテーマ】　学校教育現場では，子どもたちの教育的ニーズが多様化していることが指摘されており，この多様化するニーズへの理解と支援を学ぶことはすべての教員に必要不可欠である。本講では，特に発達の多様性に応える教育を学ぶことをテーマとする。

【到達目標】

1　発達の多様性，特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて理解する。

2　多様なニーズのある子どもへの適切な支援方法や環境づくり，学校内外における連携についての基本的態度を学ぶ。

授業の概要　まず，インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて概説したうえで，多様な子どもたちの様々な教育的ニーズについて学ぶ。そして，それらのニーズに応じるための学校現場における教育実践の在り方を検討することで，発達の多様性を応えるための基礎的な知見と実践力を身に付けることを目指す。

授業計画

第１回　オリエンテーション（授業の概要と到達目標，特別支援教育の意義と役割，発達の多様性について学ぶ意義）

第２回　発達の多様性と子どもたちのニーズ①（発達障がいについて）

第３回　発達の多様性と子どもたちのニーズ②（発達障がい以外の障がいについて）

第４回　発達の多様性と子どもたちのニーズ③

（母国語や貧困の問題，２Ｅ等の教室の中の様々なニーズについて）

第５回　子どもの行動の理解と支援（行動理論の基礎知識）

第６回　学校全体で取り組むポジティブ行動支援

第７回　学級で取り組む教育のユニバーサルデザイン

第８回　家族の思い，保護者との協働

定期試験

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

・村中直人（2020），ニューロダイバーシティの教科書－多様性尊重社会へのキーワード，金子書房．他，適宜授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（80%），毎回授業時に提出する小レポート（20%）

授業科目名： 教育課程論（校種間連携を含む。）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 幾田伸司、前田洋一、井上奈穂、山田芳明、早藤幸隆 担当形態：オムニバス

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・教育課程に関する基本的な概念理解を深めるとともに，新指導要領改訂に向けた動向，将来の教育実践に向けての展望と具体的な手立てを得ることができる。

・社会背景との関連，学習の系統性及び資質・能力の育成の観点から見た教育課程を検討し，校種間連携や教科・領域横断的カリキュラムを踏まえて，その特徴を説明することができる。

授業の概要

①わが国の社会背景と学習指導要領との関連を検討する。

②学力問題をはじめとする教育課程をめぐる諸課題や動向について検討する。

③将来の教育実践に向けて，教育課程編成の理論と実践例を検討する。

授業計画

第１回：ガイダンス　教育課程とは：社会における役割，編成の基本原理（前田）

第２回：学習指導要領について（前田）

第３回：学習指導要領の変遷と時代背景（井上）

第４回：学習の系統性を重視した教科・領域横断的教育課程の編成（幾田）

第５回：資質・能力の育成の観点から見たカリキュラム評価（早藤）

第６回：校種間連携と教育課程：その意義と編成方法（山田）

第７回：カリキュラム・マネジメントと一貫教育（前田）

第８回：カリキュラムと学校・社会に開かれた教育課程（前田）

定期試験は実施しない。

テキスト

古川治・矢野裕俊ほか編『教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房，2015 年

文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版），『小学校学習指導要領』（最新版），『中学校学習指導要領』（最新版），『高等学校学習指導要領』（最新版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付するとともに，参考文献を紹介する。

学生に対する評価

授業時の取組状況（ワークシート，発表など）（60％），レポート課題とテスト（40％）

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 金野誠志 担当形態：単独

科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法

授業のテーマ及び到達目標

本授業科目では，地域素材および教材に関する研究，家庭や地域との連携のあり方などについて具体的に提示し、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す指導法、並びに学習活動の評価に関する基礎的知識・技能を身に付ける。

① 各学校での「総合的な学習の時間」の目標及び内容を定める際の基礎的な考え方を理解する。
② 具体例を通して、「総合的な学習の時間」の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。
③ 具体例を通して、「総合的な学習の時間」の指導と評価の基礎的な考え方および実践上の留意点を理解する。

授業の概要

授業計画

第１回：「総合的な学習の時間」創設の趣旨と目標及び内容、年間指導計画の作成と教科等との関連
第２回：主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（１）－課題発見・課題設定－
第３回：主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（２）－追求・まとめ－
第４回：主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（３）－発信・表現－
第５回：地域素材の発掘と教材化，家庭・地域との連携のあり方
第６回：ICTを活かした「総合的な学習の時間」の授業の計画と工夫
第７回：ICTを活かした「総合的な学習の時間」の授業の評価と指導
第８回：探究的な学習の過程を意識した単元づくりと実践上の留意点

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説書　総合的な学習の時間編』（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説書　総合的な学習の時間編』（最新版）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説書　総合的な学習の時間編』（最新版）

参考書・参考資料等資料を適宜配付するので自ら綴じて整理すること。

学生に対する評価

授業中の課題レポート，テストの提出状況等から総合的に評価する。

授業科目名： 特別活動指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 岡田康孝、藤田　完 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		

授業のテーマ及び到達目標

特別活動の意義、目標及び内容を理解する。

特別活動の指導の在り方を理解する。

授業の概要

特別活動の歴史的変遷を概観するなかで，その意義を明らかにする。また，内容毎に理論と展開事例を考察するなかで，小・中・高等学校における特別活動の基本的性格についての理解を図るとともに，現場における実践上の課題を検討する。さらに学級活動・ホームルーム活動の模擬実践を通して，特別活動の指導の在り方について考察する。

授業計画

第１回：特別活動の意義と目標

第２回：特別活動の主な内容（１）学級活動

第３回：特別活動の主な内容（２）児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事

第４回：各教科等との関連　及び　家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方

第５回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導・取組の評価・改善

第６回：学級活動・ホームルーム活動に関する模擬授業計画の立案

第７回：学級活動・ホームルーム活動に関する模擬授業の実践

第８回：学級活動・ホームルーム活動に関する模擬授業の実践の省察　及び　まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省　小学校学習指導要領解説　特別活動編（最新版）

文部科学省　中学校学習指導要領解説　特別活動編　（最新版）

文部科学省　高等学校学習指導要領解説　特別活動編（最新版）

参考書・参考資料等

適宜，参考文献の紹介，関係資料の配付を行う。

学生に対する評価

講義への貢献状況を重視する。討議への参加，レポートの提出状況，試験などを総合的に判断して評価を行う。

授業科目名： 教育工学（情報通信技術の活用を含む。）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 川上綾子，江川克弘，藤原伸彦，泰山裕，小倉正義，竹口幸志 担当形態： オムニバス・複数

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

教育工学は，学びへの効果的な支援のあり方を実践的立場から実証的に探究していく学問である。本授業では，そのような教育工学的アプローチに基づき，これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法・技術の基礎を身につける。特にICTの活用については，Society 5.0 時代に求められる教育のあり方に関する基礎的な知識とともに実践に必要な技術を身につけることを目指す。到達目標は，①教育の方法・技術に関わる基礎的な理論や概念及び育成すべき資質・能力について理解し，説明できること，②育成すべき資質・能力に適した授業・保育の設計・実施・改善ができること，③教育におけるICTの活用について基礎的な知識・技能を身につけ，説明・実践できること，である。

授業の概要

まず，第1～5回において，これからの子どもたちに求められる資質・能力及びその確実な育成をめざした授業・保育の方向性，教育方法・学習評価に関する基礎的理論を知り，それらの実践場面への具体的展開について理解を深める。次に，第6～12回において，児童生徒の情報活用能力の育成，GIGAスクール構想下の新たな学び，プログラミング教育等，「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に関わる具体的内容を学ぶ。そして，第13～15回において，これまでに学んだことを活用して具体的な授業の設計・実施（模擬）・振り返りを行う。

授業計画

第１回：資質・能力の確実な育成をめざして―主体的・対話的で深い学びとICT環境による個別最適化された学び―（担当：泰山，藤原）

第２回：教育方法に関する基礎的理論と授業の構成要件（担当：川上）

第３回：学習評価の基礎及び育成すべき資質・能力を踏まえた評価のあり方（担当：川上）

第４回：基礎的な学習指導理論の授業実践への展開（１）：学習内容の本質的理解と学習目標，評価規準・基準の設定（担当：江川）

第５回：基礎的な学習指導理論の授業実践への展開（２）：効果的な授業展開や学習形態の設定，教材・教具の効果的な利用（担当：江川）

第６回：情報活用能力の育成（担当：泰山）

第７回：GIGAスクール構想と新たな学びのかたち：GIGA端末を活用した指導と評価，オンライン教育など（担当：泰山）
第８回：GIGAスクール構想に関わる実践事例の検討：学習指導（学校での授業及びオンライン教育）や校務におけるICTの効果的な活用と学校のICT環境整備（担当：泰山）
第９回：情報モラル・情報セキュリティに関する理解と指導（担当：竹口）
第１０回：特別の支援を必要とする児童・生徒に対するICTの活用（担当：小倉）
第１１回：プログラミング教育と育成すべき資質・能力（担当：藤原）
第１２回：プログラミング演習：指導事例の分析と教材の作成（担当：藤原）
第１３回：授業設計・実践演習（１）：授業設計と学習指導案の作成（担当：全員）
第１４回：授業設計・実践演習（２）：作成した学習指導案の検討，模擬的実践（担当：全員）
第１５回：授業設計・実践演習（３）：授業設計・模擬的実践の振り返りとまとめ（担当：全員）
定期試験

テキスト
特に指定しない。授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等
○小学校学習指導要領（平成29年3月告示，文部科学省）
○中学校学習指導要領（平成29年3月告示，文部科学省）
○鳴門教育大学プログラミング教育研究会（2021）「基礎と実践から学べる小・中学校プログラミング教育」，ジアース教育新社

学生に対する評価
定期試験（６０％），模擬授業の活動内容（４０％）

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 池田誠喜、岡田康孝、小坂浩嗣 担当形態：オムニバス

科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

・生徒指導，進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。
・生徒指導に係る具体的諸課題への対応，全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や実際の指導方法を理解する。
・児童生徒が抱える個別の課題に向き合う生徒指導や進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。
・生徒指導，進路指導・キャリア教育に係る実践的な資質・能力を修得する。

授業の概要

「個性，社会性」を育み「児童生徒の自己実現，社会的・職業的自立」を援助することを目的とする生徒指導，進路指導・キャリア教育の基本的考え方やその視点を踏まえたカリキュラム・マネジメントの意義を解説する。また，学校現場に即した事例・実践例の検討を通じて，生徒指導，進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングの考え方をもとに児童生徒理解，指導，援助の意義を考察する。

授業計画

第１回：生徒指導の課題　生徒指導の方法　生徒指導の基盤　生徒指導に係る法令(担当：池田誠喜)
第２回：戦後の生徒指導の歴史　ガイダンスと集団主義教育(担当：池田誠喜)
第３回：発達支援と生徒指導　カリキュラムと生徒指導の捉え方　生徒指導の機能(担当：岡田康孝)
第４回：生徒指導と学習指導(担当：池田誠喜)
第５回：進路指導・キャリア教育の意義と原理の理解(担当：岡田康孝)
第６回：ガイダンスの機能を活用したキャリア教育の展開とキャリア発達の視点に立ったキャリア・カウンセリングの実践(担当：小坂浩嗣)
第７回：個別の課題を抱える児童生徒への指導
　　いじめ・不登校等，現代的課題への対応について(担当：小坂浩嗣)
第８回：生徒指導体制　教育相談体制　危機管理体制　学校・家庭・地域・関係機関との連携
　　(担当：池田誠喜)

テキスト

文部科学省（2010）「生徒指導提要」教育図書

参考書・参考資料等 日本生徒指導学会編（2015）「現代生徒指導論」学事出版
学生に対する評価 学習活動、毎時間内のレポートによる授業についての達成度を総合して評価する。

授業科目名： いじめ防止論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 池田誠喜、岡田康孝、小坂浩嗣 担当形態：オムニバス

科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

・いじめとは何か，いじめはなぜ起きるのか等，いじめに関する基本的理解を深める。

・いじめに係る法令や諸施策を理解する。

・いじめ防止に係る教師としての実践的な資質を深める。

授業の概要

喫緊の教育課題となっているいじめ問題の解決に向けて，いじめ加害・被害の実態，いじめに関する先行研究，いじめに係る法令等を解説するとともに，実際のいじめ事案や具体的場面での対応の検討を通じて，いじめ問題理解といじめ防止の要点を考察する。

授業計画

第１回：いじめの社会問題化、いじめの定義・態様・構造(担当：池田誠喜)

第２回:いじめ防止対策推進法、いじめ防止基本方針、いじめ重大事態について(担当:池田誠喜)

第３回：ネット上のいじめ、差別といじめ、いじめの国際比較研究(担当：池田誠喜)

第４回：いじめ防止に係る学校教育の取組【道徳教育、予防教育、学級経営】(担当：岡田康孝)

第５回：組織的対応と３つ（ナレッジ・リスク・クライシス）のマネジメント(担当：池田誠喜)

第６回：修復的実践とレジリエンスの育成(担当：池田誠喜)

第７回：いじめの事例分析と基本的対応について【専門家・関係機関との連携】(担当：小坂浩嗣)

第８回：いじめ防止の基盤づくり（コミュニティオーガナイズ）（担当：小坂浩嗣)

テキスト

文部科学省（2010）「生徒指導提要」教育図書

参考書・参考資料等

森田洋司（2010）「いじめとは何か」中公新書

学生に対する評価

学習活動、毎時間内のレポートによる授業についての達成度を総合して評価する。

授業科目名： 教育相談論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉井健治、廣瀬雄一 担当形態：オムニバス
科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

幼児児童生徒の個性の伸長や人格の成長を支援し，また不適応問題の予防及び解決に取り組むためには，教育相談に関する基礎的知識や基本的態度・技法を身につけておくことが必要である。本授業の目的は，教育相談における教師としての基礎的実践力を養うことである。

到達目標は以下の４点である。

① 教育相談に関わるカウンセリングの基礎的な理論・概念を理解している。

② 受容，傾聴，共感的理解等のカウンセリングの態度・技法を理解している。

③ 不登校，いじめ等の課題に対する教育相談の進め方を理解している。

④ スクールカウンセラー等との連携の意義や必要性を理解している。

授業の概要

① 教育相談の意義と課題を理解する。

② カウンセリングに関する基礎的知識を習得する。

③ 傾聴の意義や方法を理解する。

④ 不登校，いじめ等への理解と対応を理解する。

⑤ スクールカウンセラー等との連携について理解する。

授業計画

第１回：教育相談の意義と課題（担当：吉井健治）

第２回：カウンセリングの基礎用語と基礎知識（担当：廣瀬雄一）

第３回：カウンセリングの理論（１）精神分析学，等（担当：廣瀬雄一）

第４回：カウンセリングの理論（２）人間中心療法，等（担当：廣瀬雄一）

第５回：カウンセリングの理論（３）認知行動療法，等（担当：廣瀬雄一）

第６回：児童生徒の心理的課題への理解と対応（担当：廣瀬雄一）

第７回：児童生徒の話を聴くこと（担当：廣瀬雄一）

第８回：保護者の話を聴くこと（担当：廣瀬雄一）

第９回：相手の心に近づく聴き方（担当：吉井健治）

第１０回：いじめと不登校（担当：吉井健治）

第１１回：不登校児童生徒への理解と対応（１）十二の技１～４（担当：吉井健治）

第１２回：不登校児童生徒への理解と対応（２）十二の技５～８（担当：吉井健治）

第１３回：不登校児童生徒への理解と対応（3）十二の技９～１２（担当：吉井健治） 第１４回：教育相談の組織的な取組み（担当：吉井健治） 第１５回：スクールカウンセラー等との連携（担当：吉井健治） 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 文部科学省（2010）．生徒指導提要 吉井健治（2017）．不登校の子どもの心とつながる：支援者のための「十二の技」．金剛出版
学生に対する評価 授業への参加状況，テスト，レポート等を総合して評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（幼・小・中・高）	単位数：２単位		担当教員名：湯口雅史、湯地宏樹、幾田伸司、金野誠志、藤原伸彦、佐藤美智子、井上奈穂、秋田美代、寺島幸生、鉄口真理子、山木朝彦、伊藤陽介、速水多佳子、高原光恵、小澤大成		
科　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次通年	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	○
受講者数　　１１人					

教員の連携・協力体制

各コース単位，2/15回全体授業を実施（学級経営について，支援を要する子どもについて）

授業のテーマ及び到達目標

３年次までの科目履修，主免教育実習，学修キャリアノートの筆記等を通して修得・省察してきた知識・技能を確認し，不足している知識・技能等があれば補完・向上させ，教員として必要な資質・能力（①教育者としての人間性，②協働力，③生徒指導力，④保育・授業実践力，⑤省察力）として有機的に統合・形成させる。

【到達目標】①教員としての使命感や責任感をもち，愛情をもって子どもに接することができる。②社会性や対人関係能力を基盤として，他者と協力して職務を遂行することができる。③子どもの個々の特性や課題を理解し，適切な集団作りや学級経営を行うことができる。④教科や保育内容等の知識や技能を身につけ，それらに基づいて指導にあたることができる。⑤自らを省みることにより，行動や思考を改善していくことができる。

授業の概要

１．子ども理解と学級経営を主題とする演習を行い,自己の知識･技能を確認し,補完・向上させる。

２．教科･保育内容等の指導を主題とする演習を行い,自己の知識･技能を確認し,補完・向上させる。

３，教員養成実地指導講師の講演を聴講し，質疑応答に参加し，レポートを作成する。

４．学修成果を問う演習（口述，筆記等）を行い，教員としての資質能力の修得度を最終確認する。

授業計画

第１回：オリエンテーション／３年次までの学修の省察・教員に求められる資質能力の統合

第２回：３年次までの学修の省察・教員に求められる資質能力の統合

第３回：子ども理解と学級経営を主題とする講演・質疑応答（１）

第４回：子ども理解と学級経営に関する応用演習（集団討論，役割演技など）

第５回：子ども理解と学級経営に関する応用演習（集団討論，役割演技など）

第６回：子ども理解と学級経営に関する応用演習（集団討論，役割演技など）

第７回：後期オリエンテーション，教員インターンシップのふりかえり

第８回：子ども理解と学級経営を主題とする講演・質疑応答（２）

第９回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）

第１０回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）

第１１回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）

第１２回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）

第１３回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）

第１４回：本授業のまとめと学修成果の確認のための演習

第１５回：本授業のまとめと学修成果の確認のための演習

テキスト

○文部科学省 生徒指導提要 2010　　○文部科学省 学習指導要領 2027(小・中)，2028（高）

参考書・参考資料等

適宜資料を配付

学生に対する評価

授業への参加状況，テスト，レポート等を総合して評価する。

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。